

## 和仏法律学校講義録

松井, 茂 / 小河, 滋二郎 / 秋山, 雅之介 / 副島, 義一 / 竹井, 耕一郎

---

(出版者 / Publisher)

和仏法律学校

(巻 / Volume)

3-15

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

53

(発行年 / Year)

1900-09-15

# 和佛法律學校

## 講義錄

第 參 部

第 拾 五 號

憲

法(自二一) 法學士 島 義 一

行

政 法(自二〇三) 法學士 竹 井 耕 一 郎

國際公法(戰時) (自一六五) 法學士 秋 山 雅 之 介

警

察 法(自八八) 法學士 松 井 茂

監

獄 學 提 要(自九三) 小 河 滋 二 郎



090  
1900  
3-1-15

下ナシ榮典授與ノ權ハ天皇ノ權ニ屬スルモノナリ  
第四 天皇ノ財產權 天皇ノ財產ハ每年國庫ヨリ支出スル皇室經費世傳御料  
及ヒ自由處分ノ財產ヨリ成ル

### 第四節 皇位ノ繼承

國家ハ一瞬間モ最上機關ノ地位ヲ充タス人ヲ缺クコトヲ得ヌ而シテ機關ノ  
地位ヲ充タス天皇ノ一箇人ハ國家ト共ニ永久ナルコトヲ得ヌ是ニ於テ其一  
ニ崩御アレハ之ヲ繼承スル方法存セサルヘカラス其機關シタル天皇ノ國家機  
關ノ地位ヲ一箇人カ充填スルコトヲ皇位繼承ト曰フ古代ニ於テ國家思想未タ  
發達セサル時ニ當リテハ國家ノ政治權ハ君主ノ所有權ト同一視シ又國土人民  
ハ其所有權ノ目的物ナリト爲シ隨テ皇位繼承ノ如キモ全ク民法上ノ相續法ト  
同一視セリ然レトモ今日ニ於テハ統治權ハ所有權ト異ナリ天皇ハ統治權ヲ執  
行スル機關ナルコト明カナルニ至ルニ隨ヒテ其機關ノ地位ノ繼承ニ關スルコ  
トモ全ク國法的ノモノナルコトヲ審ニスルニ至レリ然レトモ今日ニ於テ仍也

皇位繼承ヲ説明スルニ私法ト公法トヲ混淆シテ説明スル者アリ乃チ或學者ノ如キハ皇位繼承ハ二種ノ性質ヲ含ム即チ君主ノ位カ一定ノ血族者ニ屬スル點ヨリ云ヘハ私法的ナリ其繼承スル目的物ヨリ云ヘハ國法的ナリト云ヘリ或ハ又皇位繼承ハ封建時代ノ封土ノ和續ト同シク一種ノ家産和續ナリト云フ者アリ然レトモ皇位繼承ハ前代ノ天皇ヨリ其皇位ヲ讓受タルモノニアラス皇重典範ニ基キテ一定ノ順位ニ當レル者ハ天皇崩御アレハ當然其位ニ即クコトヲ得ルモノナリ即チ國家ノ爲メニ其位ヲ踐ムモノナリ一定ノ順位者カ賈闕シタル皇位ヲ充タスハ國家ノ定メタル國家機關設定ノ方法ニ從フノ行爲ナリ即チ國家カ皇位者ヲ設定セタルモノナリ故ニ皇位繼承ニ關スルコトハ國家機關ノ設定法ナリ皇室ノ私事ニ屬スルモノニアラスシテ國家ノ公事ニ屬スルモノナリ故ニ民法ニ所謂家督和續若クハ家産和續トハ大ニ其性質ヲ異ニス又皇位繼承ハ國家機關ノ設定法ナリトスルニ依リテ始メテ皇位繼承ノ際ニ生スル諸種ノ關係ヲ説明スルコトヲ得例ヘハ前ノ天皇ノ行ヒタル行爲ハ後ノ天皇ノ世ニ於テモ當然效力ヲ有スルモノナリ是レ蓋シ國家ノ機關タル天皇ノ地位ヲ充タス

二個人ハ變更スルモ國家ハ毫モ變更セサルニ由ルモノナリ若シ皇位繼承ハ家産和續ト同一性質ノモノナリトセハ後ノ人格カ前ノ人格ヲ和續スルモノニシテ二個人ノ人格アリト謂ハサルヘカラス然レトモ皇位繼承トハ唯機關ノ地位ヲ充タス一箇人ノ變動ヲ謂フノミニシテ國家ノ人格ハ之カ爲メニ毫モ變動スルモノニアラサルナリ

上述ノ如ク皇位繼承ハ家産和續又ハ家督和續ニアラスシテ國家ノ公事ニ屬スルモノナルカ故ニ之ヲ規定スルノ法即チ皇室典範ノ一部分モ亦國家法ノ一部分ニ屬ス故ニ外國等ニ於テハ皇位繼承ニ關スル規定ハ形式上ノ憲法ヲ以テ規定シ又之ヲ變更スルニモ議會ノ協贊ヲ求ムルヲ必要トセリ我國ニ於テハ皇室典範ノ變更即チ皇位繼承ニ關スルコトハ苟モ憲法ノ條項ニ觸レサル限りハ帝國議會ノ協贊ヲ要セサルコトト爲リ居ルカ故ニ皇室典範ハ皇室ノ私法ノ如ク見ユ然レトモ是レ唯變更制定ノ手續ヲ異ニスルノミニシテ其法ノ性質ハ國家法系統ノ一部ニ屬スルモノナリ

皇位ヲ繼承スルニハ一定ノ資格ヲ有スルヲ必要トス又一定ノ順序ニ依ルコト

ヲ必要トス

(一) 皇位繼承ニ要スル資格

皇位繼承ニ要スル資格ハ左ノ如シ

其一 祖宗ノ皇統ニ出ツルコト

其二 男系ノ男子タルコト

其三 有能力タルコト

(二) 皇位繼承ノ順序

前ニ述ヘタル皇位繼承ノ資格ハ唯皇位ヲ繼承スル人ノ範圍ヲ一般ニ定メタル

ニ付テ三主義アリ即チ年長主義近親主義及ヒ長系主義是ナリ

年長主義トハ皇位繼承ノ資本ヲ有スル者ノ中ニ就テ最モ年長ノ者ヲシテ君主

ノ位ニ即カシムモノニシテ毫モ其前ノ君主ニ對スル親等ノ遠近ニ關係セシメ

ザルモノヲ謂フ近親主義トハ親等即チ血縁ノ最モ近キモノヲシテ君主ノ位ニ

即カシムルノ主義ヲ謂フ但シ同親等内ニ數人アルトキハ年長者ヲ立ツルモノ

下ニ長系主義トハ系統ノ最モ長キ者カ繼承スル主義ニシテ專屬親カ尊屬親

ヲ代表スル權ヲ有スル繼承法ナリ而シテ我皇憲典範ハ原則トシテハ年長主義

ヲ採ルト雖モ歐洲諸國ト異ニシテ庶出ノ皇子孫モ皇位ヲ繼承スルコトヲ得ル

カ故ニ我採用セル主義ニ於テハ嫡系及ヒ長系ヲ先ニスル主義ナリト謂ハサル

ハカラス

第五節 天皇ノ踐祚

前ニ述ヘタル如ク國家ノ常ニ國權ノ統治者ヲ有セザルヘカラス而シテ天皇ノ

一箇人ハ僅ニ其一生間ニ於テ斷絶シ國家ノ永久ナル性質ニ伴フコト能ハス故

ニ皇位繼承法ニ於テ皇位ヲ踐ムヘキ者ノ順位ヲ定メタリ是ヲ以テ天皇ノ崩御

アレハ其繼承者ハ法律上一定スルカ故ニ皇位ヲ曠闕ト充填トハ國法上同一瞬

間ニ生セシム即チ天皇ノ崩御アレハ繼承權ヲ有スル者ハ當然天皇ト爲ルモノ

ナリ之ニ依リテ國家機關ノ地位ヲ承テ亦タス者モ亦中斷スルコトナクシテ國家ノ

永久ナル性質ニ伴フコトヲ得是レ皇室典範第十條ニ天皇崩スルトキハ皇嗣即

ヲ踐祚シ云云トアルニ依リテ明カカリ唯一ノ例外ト見ルヘキハ天皇ノ御崩ス  
 ラシトキニ未タ出生シタル皇嗣ナクシテ懷胎ノ皇子アル場合ナリ此場合ニハ  
 懷胎ノ皇子ハ之ヲ未成年ノ天皇ト看做シテ攝政ヲ置クコト適當ナラシト信ス  
 我皇室典範ノ規定ヲ見ルニ皇位ハ皇子孫等ニ傳フトアルモ其皇子孫ト謂フハ  
 必スシモ現ニ出生シタル皇子孫ノミニ限ルト云フ解釋ヲ下スコトヲ得ス民法  
 上ノ相続等ニ於テモ懷胎兒ニハ相続權ヲ與フニ由リテ觀ルモ亦懷胎ノ皇子ニ  
 皇位ヲ傳フルコトハ條理ニ適シタルモノナリト思惟ス固ヨリ皇位繼承ト相續  
 トハ法律上ノ性質ヲ異ニスルモノナリト雖モ一定ノ血族者ノ順序ニ從ヒテ繼  
 承ヲ爲スコトヲ得トスル所ノ立法上ノ精神ニ至リテハ異ナルコトナシ且ツ我  
 國ノ歴史上ニ於テモ懷胎ノ皇子アレハ攝政ヲ置キタル例アリ若シ皇室典範ニ  
 於テ之ヲ禁スル趣意ナリトセハ明カニ之ヲ規定シタル管ナリ然ルニ今之ヲ明  
 言セサルニ由リテ觀レハ即チ懷胎ノ皇子モ亦繼承權ヲ有スル者ト解セサルヘ  
 カラスト信ス或ハ此場合ニハ懷胎ノ皇子ノ有無ニ拘ラズ繼承權ヲ有スル者ハ  
 直チニ天皇ト爲ルコトヲ得但シ其懷胎ノ皇子カ男子トシテ出生シタルトキハ

其天皇ハ位ヲ退カナルヘカラスト曰フ者アリ此說ニ從フトキハ懷胎ノ皇子カ  
 死體ニテ出生シタル場合又ハ皇女子トシテ出生シタルトキハ何等ノ差支ヲ生  
 モス然レトモ懷胎ノ皇子カ皇男子トシテ出生シタルトキハ一タヒ天皇ト爲見  
 タル者ヲシテ其位ヲ退カザルニ至ルモノナリ即チ天皇ノ位ヲ自由ニ變動セ  
 シムルノ結果ヲ生スルニ至ル是レ君主國ノ原則ニ反スルモノト謂ハサルヘカ  
 ラス之ニ反シテ天皇崩御シタルトキニ懷胎ノ皇子アレハ繼承權ヲ有スル者ハ  
 先ツ其懷胎皇子ニ避ケテ直チニ天皇ノ位ニ即カスツテ其懷胎ノ皇子カ死體ニ  
 ツ出生シ又ハ皇女子トシテ出生シタルトキニ於テ始メテ天皇ノ位ニ即クコト  
 トスルトキハ前説ノ如ク君主國ノ原則ニ反スルニ至ルノ恐ナシト雖モ此場合  
 三ハ懷胎皇子ノ出生スルマテハ眞ノ天皇ハ存在セサルカ故ニ此間ハ天皇ノ位  
 ヲ曠シウセタルモノト謂ハサルヘカラス

第六節 皇位ノ喪失

我國ニ於テハ皇位喪失ノ場合ハ天皇崩御ノ一事ニ限ル外國ニ於テハ讓位ノ場

合アリト雖モ我國ニ於テハ讓位ヲ認メス皇室典範第十條天皇崩スルトキハ皇嗣即チ踐祚シ云トアリ皇嗣ノ踐祚スルハ唯天皇崩御ノ場合ノミナルカ故ニ崩御以外ニ於テハ皇嗣ノ踐祚スヘキ場合ナシ故ニ天皇ハ讓位スルコトヲ得サルヲ知り得ヘシ天皇ノ位ハ終身ノモノナリ其他天皇ハ決シテ廢セラレルコトナシ天皇ヨリ高キ權力ヲ有スル者ナキカ故ニ國法上ニ於テハ廢皇ト云フニ下ラ生セサルナリ

### 第二章 攝政

#### 第一節 攝政ノ地位

皇位繼承法ニ依テテ天皇ノ位ヲ踐ム者ハ常ニ存在スルコトヲ得ルモ若シ天皇未成年ナルカ又ハ故障ノ爲メニ大政ヲ親裁スル旨ト能ハサルトキハ亦之ヲ補充方法存在セザレバ國家作用ハ實際ノ執行或ハ中断セラレ或ハ不完全ナルニ至ル是ニ於テ攝政ナル機關ヲ設テ攝政ス如何ナル地位ヲ有スルヤニ付テ或學者ハ攝政ハ一種不完全ナル皇位繼承者ナリト曰モ或學者ハ攝政ハ一時ノ

國家元首ナリト曰ヘテ此等ノ說明ハ惟テ攝政ノ實質上ノ狀態ヲ形容シタルモノナリト雖モ法律上ニ於テハ完全ノ說明ト謂フコトヲ得ス攝政ヲ置ク場合ニ決シテ天皇ノ位ヲ賙シウケタル時ニアラス故ニ皇位繼承ノ一種類ト謂フコトヲ得ス又國家ノ元首トシテハ天皇既ニ存在スルカ故ニ一時ノ元首ト云フモ其當ヲ得タルモノニアラス憲法第十七條第二項ニ攝政ハ天皇ノ名ニ於テ大權ヲ行フトアリ是レ即チ攝政ノ地位ヲ明カニシタル規定ナリ即チ攝政ハ天皇ニ代ラテ國家ノ作用ヲ統轄スル機關ナリ即チ憲法上天皇ノ代表者ナリ代表者ト言ヘハ其意思カ憲法上直接ニ天皇ノ意思トシテ效力ヲ有スルコトヲ謂フ代表者ノ意思ハ直接ニ被代表者其者ノ意思ナリ攝政ハ意思無能力ナル天皇ヲ代表スル者ナリ攝政ノ發表セタル意思ハ憲法上當然天皇ノ意思ナリ故ニ攝政ハ天皇ヲ代表スル機關ト謂フコトヲ得未タ公法ノ發達セザル時ニ當リテハ國家ニ關スルコトモ多クハ私法ニ依リテ說明シタルカ故ニ攝政ノ如キモ全ク後見人ト同一ノ者ト看做サレタリ然レトモ攝政ハ決シテ被後見人ト爲メニ設ケラレタル後見人ニアラス國家ノ爲メニ設ケラレタル機關ナリ我皇室典範ニ於テ

明カニ之ヲ區別シテ未成年ノ天皇ノ保育ヲ掌ラシムル爲メニ區別ニ大傳ヲ設  
ク攝政ハ天皇ノ私事ニ關スル者ニテ是ヲ專ク國家ノ政務ヲ行フ者ナリトシテ  
攝政ハ天皇若クハ其他ノ機關ノ任命ニ由リテ生ズルモノニアラズ憲法ハ皇  
典施トニ依リテ一定ノ事情ノ生ズルニ於テハ直接ニ其位ヲ讓ムコトヲ得即チ  
一定ノ事情ノ到来スレバ天皇ノ意思ニ關セシ當然大權ヲ行フコトヲ得ルモ大  
ニテ故ニ攝政ハ國家ノ直接機關トシテ攝政ハ天皇ニ代リテ大權ヲ行フ者ナル  
カ故ニ苟モ天皇ニ屬スル權限ニ悉ク之ヲ行ヒ得ルヲ以テ原則トス且ツ天皇ト  
同一ノ形式ヲ以テ大權ヲ行フコトヲ得又其效力モ天皇ノ行ヒタルモノト毫モ  
異ナルコトナシ唯我憲法第七十五條ニ攝政ノ在ル間ハ憲法及ヒ皇室典範ヲ  
變更スルコトヲ得サルノ規定アリ之ヲ以テ攝政ノ權限ヲ制限シタルモノナリ  
攝政ハ天皇ノ大權ヲ攝行スル者ナルカ故ニ天皇ノ一箇人ニ附著スル權利例  
ハ榮譽權財產權ノ主格ト爲ルコトナシ攝政ノ一箇人ノ有スル權利ハ唯其攝政  
者タル地位ヲ承認セシムル請求權及ヒ皇族トシテ有スル一定ノ榮譽權ノミナ  
リ唯茲ニ疑アルハ攝政ハ天皇ノ如ク責任ヲ負ハサル特權ヲ有スルヤ否ヤノ一

點ナリ即チ無責任ノ原則ニ唯天皇ニテモ適用スルモノナラカバ攝政ハ此特權ヲ  
受タルコトヲ得ザルヤニ付キ多少ノ疑アリ然レトモ攝政カ此特權ヲ有スルハ  
諸學者ノ間ニハ多ク異論ヲキ所ナリ但シ何故ニ攝政ハ此特權ヲ有スルモノナ  
ルヤ詳細ノ説明ヲ爲シタル者ヲ見ス或ハ曰ク攝政ハ一切ノ大權ヲ行フ者ナリ即  
チ懲戒權モ司法權モ總テ之ヲ統轄スル者ニシテ國家ハ攝政ノ上ニ立ツ所ノ機  
關ヲ有セス故ニ攝政タル間ハ之ニ責任ヲ負ハシムル方法ナキニ由ル下然レト  
モ此無責任ノ特權ハ攝政カ國家機關トシテ有スル所ノ大權ニテラズシテ攝政  
ノ地位ニ當レル一箇人ニ附著スル特權ナリ故ニ大權ノ一部分タル懲戒權司法  
權ハ攝政之ヲ行フカ故ニ攝政ハ自ら其責任ヲ問フコトヲ得スト云フ理由ニ據  
ルトノ説ヲ立ツルコトヲ得ス若シ此ノ如ク言フトキハ攝政ノ一箇人ニ關スル  
私法上ノ争モ司法裁判所ニ於テ裁判スルコトヲ得スト謂ハザルヘカラス蓋シ  
攝政カ此特權ヲ有スル所以ハ攝政ハ天皇ニ代リテ統治權ノ總攝ヲ爲ス者ナ  
ルカ故ニ此特權ヲ有セザレバ其尊嚴ヲ保テ且ツ自由ニ其行爲ヲ爲スコトヲ得  
サルヲ以テナリ天皇ニ代リテ大權ヲ行フ者ナルニ拘ラス例ハ刑事上ノ責



任ヲ負ハサルヘカラストセム或ハ拘留ニ處セラレ或ハ禁錮ニ處セラレルニ至ル然ルトキハ攝政ハ自由ニ大權ヲ行フコトヲ得ス且ツ其尊嚴ヲ保ツコトヲ得ナルニ至ル故ニ攝政モ天皇ト同一ノ無責任ノ特權ヲ有スルコトヲ得ト謂フコトヲ得ヘシト信ス然レトモ攝政ハ唯在位ノ間ニ於テ其責任ヲ問ハレタル特權ヲ有スルノミ「ザイデル」(Zaier)ノ如キモ攝政カ其在位ノ間ニ行ヒタル刑法上ノ犯罪ニ付テハ攝政終了後ニ至リテ刑罰ヲ受ケサルヘカラスト論セリ蓋シ攝政ニ付テハ一般的ニ無責任ノ原則ヲ認メタルニアラス唯特別ノ地位ヲ有スルニ由ルカ故ニ其地位ヲ有セサルニ至ラハ其責任ヲ問ハルルコトヲ避ケ得テアルヘシ

## 第二節 攝政ノ生スヘキ場合

攝政ノ在ル間ハ天皇ヲシテ大權ヲ行使セシメスト云フ制限ヲ加フルモノナルカ故ニ其場合ヲ精密ニ確定スルコト必要ナリ皇室典範第十九條ニ依レハ攝政ヲ生スヘキ場合ハ天皇ノ未タ成年ニ達セサルトキ及ヒ天皇久シキニ亘ル故障ニ

由リ大政ヲ親ラスルコト能ハサルトキ是ナリ皇室典範第十三條ニ依レハ天皇ニ滿十八年ヲ以テ成年ト爲ス故ニ天皇若シ十八年未滿ニシテ位ヲ踐ムトキハ攝政ノ順位ニ當ル者ハ直接ニ攝政ト爲リテ大權ヲ行フモノトス天皇ノ未成年ナル場合ニハ攝政ハ當然其位ニ即クコトヲ得ルモ天皇カ久シキニ亘ル故障ノ爲メニ大政ヲ親ラスルコト能ハサル場合ニハ攝政ハ直チニ其位ニ即クコトヲ得ス皇族會議及ヒ樞密顧問ノ議決ヲ俟タサルヘカラス此議決ハ攝政ヲ置クヘキ場合ノ到來スルヤ否ヤヲ決定スルモノニシテ攝政ヲ任命スルモノニアラス攝政ハ攝政ヲ置クヘキ場合ノ存在スト云フ議決アレハ直チニ攝政ト爲ルコトヲ得ルモノトス大政ヲ親ラスル能ハサル故障トハ事實上無能力ナル場合ヲ謂ヒ任意ノ故障ヲ謂フニアラス能ハストハ爲ザント欲スルモ爲シ能ハサルヲ謂フモノナリ又大政親裁ノ無能トハ意思能力ノ一部分ノ缺乏ヲ謂フニアラス絶對ニ無能ナルヲ謂フモノナリ即チ親裁ニ必要ナル意思行爲ヲ獨立シテ爲シ得ヘキ能力ヲ全然缺乏セルヲ謂フザイタル氏ハ大政ノ親裁トハ精神的作用ニシテ肉體的ノ作用ニアラザルカ故ニ精神病ハ親裁無能ノ原因ト爲ルモ身體上ノ疾

病ハ決シテ直接ニ親裁無能ノ原因ト爲ルコトナシ即チ能力ガ薄弱ト爲ルコトアルモ絕對ノ無能ト爲ルコトナシト曰ヘリ然レトモ身體上ノ疾病ナルモ親裁無能ト爲ルコトアリ例ヘハ精神健全ナルモ意思發表ノ機官カ全ク其自由ヲ失フコトアリ其他外力ニ因リテ自由ノ動作ヲ妨礙セララル場合アリ故ニ唯精神ノ無能ナル場合ノミナラス意思發表ノ無能ナル場合ヲモ之ヲ包含スルモノトス面シテ此無能ハ久シキニ亘ルモノナラサルヘカラス如何ナル程度ヲ以テ久シキニ亘ルモノト爲スカ之ヲ定ムルコトハ稍困難ナリ然レトモ其故障ノ亘久ナル場合及ヒ其故障ノ存在スル時期ヲ豫見スルコトヲ得ルモ其時期ノ永續スル場合ハ「久キニ亘ル故障」ト謂フコトヲ得ヘシ此場合ニ皇族會議樞密顧問ノ議決ハ天皇ノ諮詢ヲ待テテ之ヲ爲スモノニアラス皇族樞密顧問ハ自ら進ミテ會議シ議決セサルヘカラス何トナレハ此場合ニハ天皇ハ諮詢スル能力全クナキ時ナルヲ以テナリ或學者ハ此「久キニ亘ル」ト云フコトヲ解シテ是レ時ノ長短ヲ言ヘルモノニアラス故障ノ程度ヲ言ヘルモノナリ「久キニ亘ル故障」ハ大政ヲ親裁スルコトヲ得サル絕對的ノ故障ヲ言ヘルモノニシテ時日ノ長短ニハ毫モ

關係セスト曰ヘリ然レトモ大政ヲ親ラスル能ハサル故障ト言ヘハ已ニ絕對ノ故障ナリ少シニテモ親ラスルコトヲ得ル故障ナルニ於テハ能ハサル故障アリト謂フコトヲ得ス已ニ故障カ絕對ノ無能タルヘキモノナリトセハ其上ニ復シ「久キニ亘ル」ト云フコトヲ絕對ト云フコトナリト解スルコトヲ得ス若シ此ノ如ク解釋セハ絕對ノコトヲ再言シタルモノト謂ハサルヘカラス且ツ「久キニ亘ル」故障ハ單ニ絕對ノ故障ノミナリトセハ例ヘハ一時ノ疾病ノ爲メニ人事ヲ辨セサルカ如キ場合ニ於テモ亦絕對ノ意思不能ト謂フコトヲ得ルカ故ニ斯ル場合ニモ常ニ攝政ヲ置カサルヘカラサルニ至ル且ツ皇室典範ニ明カニ「久キニ亘ル」規定セル以上ハ之ヲ全ク意味ナキモノトスルコトヲ得ス固ヨリ「久キニ亘ル」故障下ハ如何ナル要素ヲ具備セサルヘカラサルヤ之ヲ確定スルコトヲ得ス隨テ當局者ノ意見ニ因リテ多少其程度ヲ異ニスルコトアルヘシト雖モ然レトモ現在ノ人間ノ觀念ノ上ニ於テ亘久ト云フコトト短期ト云フコトトハ多少之ヲ區別シ得ルコトハ明カナリ故ニ皇室典範ニ於テモ普通ノ觀念ニ據リテ此區別ヲ爲シ得ルト云フコトヲ前提トシテ規定シタルモノト看サルヘカラス

第三節 攝政ノ資格及ヒ順序

第四節 攝政ノ終了

此二節ノ説明ハ今之ヲ省略スヘシ

第三章 帝國議會

第一節 帝國議會ノ法律上ノ地位

帝國議會ノ地位ニ付テ大凡三說アリ  
第一說ニ據レハ議會ハ議員ハ選舉人ノ代理人ナリ議會ハ此人民ノ代理人ハ會合ナリト云フニ在リ故ニ議會ノコトヲ人民代議會ト曰ヘリ此說ハ沿革上ヨリ出タル說ニシテ絕對ニ之ヲ否認スルコトヲ得ス歷史上或時代ニ於テハ適當ナル說ト謂フコトヲ得即チ往時ノ獨逸ノ各邦ニ於テハ人民ノ中ニ種種ノ階級アリテ其中ニ特權ヲ有スル階級ハ各一ノ法人體ヲ形作チテ其法人體ヨリ出テタル入ノ會合ヲ國會ト名ケタルナリ此種法人體ヨリ出テタル人ハ其附屬ノ權利ヲ利

益ヲ代理スル所ノ主格トシテ君主ト相對立セリ國會ノ各議員ハ或ハ土地所有者トシテ自己ノ權利ニ依リテ出席シタル者モアリシモ多クハ各團體ノ代理人トシテ國會ニ臨場セリ團體ノ代理人トシテ出席シタル者ハ固ヨリ其團體ノ約束ニ拘束セラレタリ此時ニ當リテハ國會ノ代議士ハ實ニ其團體ノ代理人トシナリ此等ノ歷史上ノ沿革ニ基キテ今日ニ於テモ仍ホ國會ハ人民ノ代理人ノ會合ノ如ク看做サル然レトモ今日ノ國家制度ノ上ニ於テハ國會議員ハ人民ノ代理人ニアラス國會ハ各選舉人ノ代理人ノ會合ニアラサルコトハ多言ヲ要セズニテ明カナル所ナリ  
第二說ハ國會ヲ以テ人民全體ノ代表會ト爲ス說ナリ此說ハ歐洲ノ中古ノ封建制度カ漸ク消滅シテ近世ノ國家思想ノ起ルニ隨ヒテ國會ハ人民團體ノ機關ナリ君主ニ對スル人民全體ノ代表者ナリト云フ考ニ基キタルモノナリ然レトモ近世國家思想ノ生シタル初ニ當リテハ仍ホ國會ノ代議士ハ特權ヲ有スル一定ノ階級ノミヨリ出テテ人民ノ各階級ヨリ出テタル者ニアラザリシ故ニ之ヲ人民全體ノ代表者ト曰フハ不可ナリトノ反對論アリシカ漸ク千八百十五年以來

歐洲ノ各國ニ於テ立憲制ノ完全ニ行ハルルニ至リテ國會ノ議員ハ階級ニ拘ラ  
 ス一般人民ヨリ選舉スルニ至レルガ故ニ國會ハ人民全體ノ代表人ノ會合ナリ  
 ト云フ考カ大ニ行ハルルニ至レリハ國會ハ選舉士ノ會合トシテ其議員ハ一  
 此第二說中最モ完全ナル說明ハ「ヴェルチエー」ノ說明ナリ其說ノ大要ニ曰クハ  
 民ハ國家ニ對シテハ一ノ權利主體ニアラスト雖モ又數多ク一箇人カ箇箇人ハ  
 ニ分離シテ存在スル者ヲ集合トシテ觀ルコトヲ得ス人民ハ歴史的ニ發達シタ  
 ル民性ヲ備フル總存在ニシテ各國有ノ觀念ヲ有シ各特別ノ性質ヲ有スル者  
 ナリ此意味ニ於ケル人民ハ決シテ會ニ生活物ヲ集合シタルノ者ニアラス  
 幾多ノ時代ヲ貫通シテ自ラ活動シ現在ヲ過去ニ繋キ現存ヨリ將來ニ連續スル  
 永久同一ノ者ナリ人民ヲ此ノ如ク總會スルハ固ヨリ法理的ノ觀察ニ依レルモ  
 ノニアラス哲學上政治上ノ觀察ニ依ルモノナリ然レトモ國家カ此民性ヲシテ  
 法律上有效ニ發表セシムル爲メニ一ノ機關ヲ設ケタルトキハ此ニ始メテ法理  
 上ノ意味ヲ有スルニ至ル即チ從來事實上ニ於テノミ存在セシモノカ此機關ノ  
 設定ニ由リテ始メテ法律上ノ存在ヲ得スルニ至ルモノナリ此機關ハ即チ國會

ナリ國會ハ唯一箇人ノ集合ヲ代表スルモノニアラスシテ民性ノ總存在ヲ代表  
 スルモノナリ法律カ一箇人ニ代議士ノ選舉ヲ許ス所以ハ其一箇人ノ代表人ヲ  
 選定セシムル爲メニアラスシテ國民トシテ國家ノ政務ニ影響ヲ及ボサシムル  
 方法タルニ過キサルナリ此ノ如ク人民ハ此機關ノ設定前ニ當リテハ法律上ノ  
 存在ヲ有セサルカ故ニ國會ハ既ニ存在スル人民ノ意思ヲ執行スルモノニアラ  
 スシテ國會ノ意思カ當然人民ノ意思ナリ國會ノ意思ノ外ニ人民ノ意思ハ存在  
 スルモノニアラス國會カ憲法上ノ條件ニ從ヒテ議決シタルコトハ國民ノ意思  
 宣言トシテノ價值ヲ有スルモノナリ故ニ此意味ニ於テ國會ヲ人民ノ代表人ノ  
 會合ト謂フモ決シテ妨クナシト又ボルンハツフ說ニ曰ク國會ハ人民全體ノ代  
 理者ナリ然レトモ人民ハ國法上人民全體トシテ行為ノ能力ヲ有スルモノニア  
 ラサルカ故ニ委任ヲ以テ代理者ヲ設定スルコトヲ得ス故ニ國會ハ人民全體ノ  
 法定代理者ナリ然レトモ人民ハ國家ノ支配ノ目的物ナルカ故ニ國會モ亦其目  
 的物ノ代表者トシテ國家支配ノ目的物ナリ即チ國會カ人民ノ提出スル請願ヲ  
 以テ遂行スル如キ行為ハ支配ノ目的物トシテノ臣民ヲ代表スルモノナリ之

「反シテ君主ハ其支配權ヲ行使スルニハ機關ヲ要スルカ故ニ人民ニ政治上ノ機能ヲ與ヘテ支配ノ機關タラシムルモノナリ國會カ法律命令等ノ國家意思發表ニ協賛スルハ即チ支配機關トシテノ人民ヲ代表スルモノナリ故ニ國會ハ支配ノ目的物及ヒ支配ノ機關トシテ臣民ノニツク地位ヲ代表スルモノナリト右「シムルチエ」等ノ説ハ國會ノ政治上ノ説明トシテハ或ハ適當ナリト謂フコトヲ得ヘシ然レトモ法理的ノ説明トシテハ完全ノ説明ト謂フコトヲ得ス即チ「シムルチエ」ノ所謂民性ノ總存在トハ國家ニ對シテ獨立ノ存在ヲ有スルモノニアラス隨テ權利ノ主體ニモアラス故ニ他ニ全權ヲ與ヘ委任ヲ爲スコトハ固ヨリ爲シ能ハス又代表者ニ依リテ其權能ヲ實行セシムルコトモ爲シ得サルナリ故ニ法律上ノ意味ニ於テハ國會議員ハ人民全體ノ代表人ニアラス又國會ハ人民全體ノ代表人ノ會合ニアラサルナリ

第三説ハ國會ハ國家ノ機關ナリトノ説ナリ即チ國會ハ國家ノ機關ナリ國家ハ君主ノ外ニ尙ホ第二ノ機關ヲ設ケテ國家的ノ作用ヲ爲サシムルモノナリ選舉權ヲ有スル所ノ人民ハ選舉法ニ依リテ此機關ノ組織ニ參與シテ國家ノ政務ニ

間接ニ影響ヲ及ホスノミナリ人民カ參政權ヲ有スト云フハ唯此國家ノ組織ニ參與スル權ヲ有スルコトヲ謂フニ過キス固ヨリ歴史上又ハ政治上ヨリ觀察スレハ國會ハ國民ノ精神ヲ發表スルモノナリト雖モ之カ爲メニ國會ヲ人民ノ代理者ナリト謂フコトヲ得ス唯此國家ナル機關ノ組織ニ人民カ參與スルカ故ニ國會ヲ人民ノ代表者ト謂フニ過キス國會ヲ人民ノ代表者ト謂フハ其權利義務ノ關係ニ付テ謂フニアラス國會議員ハ選舉人ノ委任ニ拘束セララルル義務ヲ有スルモノニアラス唯人民ハ此組織ニ參與スルノミナリ國會ハ一般ノ法律ニ從ヒテ其權限内ニ屬スル國家的ノ作用ヲ爲スモノナリ故ニ人民ノ代理者ニアラスマテ國家ノ機關ト謂ハサルヘカラムト云フニ在リ

我帝國議會モ亦國家ノ機關ニシテ選舉權ヲ有スル人民全體ノ代表會ニアラス又帝國議會ノ議員ハ選舉區若クハ選舉人ノ代理人ニアラス蓋シ帝國議會ハ法律ノ指定勅任又ハ人民ヨリ選舉セラレタル議員ヲ以テ組織シタル國家ノ機關ナリ帝國議會ハ直接ニ憲法ニ基キテ其權限ヲ行フコトヲ得ルモノニシテ決シテ他ノ機關ノ委任ニ依ルモノニアラス然レトモ議會ハ直接ニ三者ニ對シテ

國權ヲ行使スルコトヲ得サルモノナリ外國ニ於テハ或ハ議會ハ立法行為ヲ編  
 テ執行スルコトヲ得君主ハ唯拒絕權ヲ有スルニ過キサル所アリ或ハ議會ト君  
 主ト共同シテ國權ヲ行フノ國アリ我國ニ於テハ外部ニ對シテ國家ノ意思ヲ發  
 表スル者ハ獨リ君主若クハ其委任ヲ受ケタル者ニ限ル議會ハ決シテ外部ニ對  
 シテ國家ノ意思ヲ發表スルコトヲ得ス隨テ天皇ト共ニ國家ノ統治權ヲ行フモ  
 ノニアラス唯天皇ノ行為ヲ制限スルモノナリ天皇カ或範圍内ニ於テ作用ヲ爲  
 スニ當リテハ議會ノ意思ニ拘束セラルヘキモノナリ然レトモ結局天皇ハ統治  
 權ノ總攬者タルコトハ曾テ述ヘタルカ如シ故ニ憲法ニ特別ノ制限ナキ以上ハ  
 君主ハ自由ニ統治權ヲ行フコトヲ得ルモノナリ君主ハ完全ナル權限ヲ有スト  
 ノ推定ヲ受ク之ニ反シテ議會ハ明文ノ規定ヲ以テシタル範圍内ノ權限ヲ有ス  
 ルニ過キサルナリ然レトモ議會ノ權限ニ屬スル事項ハ或事項ヲ以テ制限セラ  
 レタルモノニアラス如何ナル事項ニ關シテモ議會ハ議決スルコトヲ得ヘシ唯  
 議會ノ權限ハ其作用ノ形式ニ付テ制限セラレ議會ノ作用ハ決議ノ形ニ於テ現  
 ハルルモノニシテ外部ニ對シテ其決議ノ實行セラルルニハ固ヨリ天皇ノ意思

發表ニ依ラサルハカラス

### 第二節 帝國議會ノ權限及ヒ作用ノ形式

帝國議會ハ國家ノ機關ニシテ國家ノ作用ニ與ルモノナリト雖モ外部ニ對シテ  
 動作スルモノニアラス即チ國權ヲ執行スルモノニアラス又國家ニ義務ヲ負ハ  
 シムルノ行為ヲ爲スモノニアラス唯天皇及ヒ其政府ノ政治上ノ行為ニ參與シ  
 及ヒ種種ノ行為ニ依リテ間接ニ之ヲ監督スルモノナリ

議會ニ屬スル權限ハ箇箇ノ事項ヲ舉ケテ之ヲ數フルコトヲ得ス議會ハ國家生  
 活ノ總テノ關係ニ參與スルモノナリ故ニ議會ノ權限ハ實質上之ヲ列舉スルコ  
 トヲ得ス唯議會カ其作用ヲ爲スニハ一定ノ形式ヲ以テ爲スナリ故ニ議會ノ權  
 限ヲ知ルニハ其行為ノ形式ニ依ルノ外ナシ今議會ノ權限ヲ形式ニ依リテ舉ゲ  
 ハ概ネ左ノ如シ

#### 第一 協賛

協賛トハ議會カ國家最高機關ノ行為ニ同意スル行為ヲ謂フ殊ニ事前ニ同意ス

憲 法 國家ノ機關 帝國議會ノ權限及ヒ作用ノ形式

意思ヲ發表スルヲ謂フ凡ソ法律及ヒ豫算等ノ制定ニハ議會ノ協賛ヲ必要トス  
 協賛アルニアラサレハ法律豫算等ハ有效ニ成立スルコトナキモノナリ  
 法律ノ議案ハ獨リ政府ノ提出スルニ限ラス各議員モ亦之ヲ提出スルコトヲ得  
 議員カ議案ヲ提出シ又之ヲ議決スルモ等シク協賛ナリ唯政府案ニ同意スルノ  
 ミカ協賛ニアラサルナリ協賛ハ君主ノ裁可ニ同意スルモノナルカ故ニ議員自  
 ラ議案ヲ提出シテ之ヲ可決シタルトキハ若シ君主カ將來此議案ヲ裁可スレハ  
 之ニ協賛スルト云フ意思ヲ發表スルモノナリ

第二 承諾  
 承諾ハ政治上ニ於テ協賛ト同シク重要ナル議會ノ權限ナリ然レトモ國法上ニ  
 於テハ承諾ト協賛トハ大ニ異ナル所アリ協賛トハ國家ノ行為ノ成立ニ前提ト  
 爲ルモノニシテ協賛アルニアラサレハ其國家ノ行為ハ有效ニ成立スルコトヲ  
 得タルナリ即チ協賛ハ事前ニ必要ナル意思發表ナリ之ニ反シテ承諾ハ事後ニ  
 同意ヲ與フルモノニシテ承諾ノ有無ハ既遂ノ國家行為ノ有效無効ニハ全ク關  
 係ナキモノナリ承諾ヲ要スル行為ノ成立ニハ承諾ヲ必要ノ要素トセス又承諾

ハ必ス政府ノ要求ニ因リテ之ヲ與フルモノニシテ議會カ自ラ進テ承諾ヲ與  
 フルモノニアラス之ニ反シテ議會カ自ラ法律案ヲ提出スルモノ仍ホ之ヲ協賛ト  
 謂フコトヲ得是レ協賛ト承諾ト異ナル所ナリ承諾ハ之ヲ事後ニ與フルモノナ  
 ルカ故ニ其行為カ一回ニシテ終了スルモノナルニ於テハ別ニ何等ノ影響ヲ生  
 スルモノニアラス既ニ行ヒタル行為ハ後ニ於テ之ヲ如何トモ爲スコト能ハス  
 緊急勅令ニシテ唯一回ノ適用ニ止マルモノ又ハ豫算外支出等ノ如キ行為ハ事  
 後ニ不承諾ヲ與ヘテモ其行為ヲ無効トスルノ途ナシ又將來ニ之ヲ廢スルコト  
 ヲ要セス故ニ不承諾ヲ與フルモ唯與フルニ止マルモノナリ但レ斯ル場合ニハ  
 上奏質問等ヲ爲シテ政府ノ責任ヲ問フ緣由ト爲ルニ過キサルナリ之ニ反シテ  
 其行為カ將來ニ永續シテ效力アルモノニ對シテ例ヘハ緊急勅令ノ多ク場合  
 ニ於テハ不承諾ヲ爲セハ政府ヲシテ其勅令ヲ將來ニ效力ヲ有セザルコトヲ公  
 布セシムヘキ義務ヲ負ハシムルモノナリ

此承諾ハ事後ニ同意ヲ與フヘキモノナリト雖モ茲ニ少シク疑ハシキハ憲法第  
 五十三條ナリ同條ニ議員ヲ逮捕スルニハ議員ノ許諾ヲ要スト云フコトアリ是

レ即チ事前ニ議會ノ同意ヲ與アルモノナリ然レトモ茲ニハ許諾トアリテ承諾ト言ハス固ヨリ許諾ト承諾トハ文字上ノ意味ニ於テ異ナルコトナレト雖モ法律上ノ意味ニ於テハ異ナルモノト解釋セザルヘカラス承諾ハ國政ニ關シテ議會ノ意思ヲ發表スルモノナリ許諾ハ議員ヲ保護シ議會ノ作用ヲ完全ナラシムルカ爲メニ之ヲ要スルモノナルカ故ニ其目的自ラ異ナレリ此場合ノ許諾ハ逮捕權ヲ有スル者ニ逮捕權ノ行使ヲ許容スルモノナリ此許容アルニアラザレバ逮捕ヲ爲スコトヲ得ス故ニ許諾ト承諾トハ同一ノモノニアラス承諾ハ總テ事後ニ與フルモノナリ事前ニ與フル所ノ許諾ハ又之ヲ議會ノ一權ノ權限ト認メザルヘカラス

或ハ協賛ト承諾トハ區別スル必要ナシ此兩者ハ其實質ニ於テ異ナルコトナキカ故ニ事前後ニ由リテ區別スルコトヲ要セズ其效力總テ同一ナリ法律ニハ協賛ヲ要スルモノ其前後ハ毫モ問フ所ニアラス惟議會ノ同意ヲヘアレハ協賛ト爲ルモノナリト言フ者アリ然レトモ例ヘハ緊急勅令ハ事後承諾ヲ得ルモ之カ移ニ決シテ法律ト爲ルモノニアラス固ヨリ事後承諾アレハ依然トシテ其效力

力ヲ有スルモノナリト雖モ法律トシテ發布セラレズルモノニアラザルカ故ニ決シテ法律ト爲ルコトナシ承諾トハ或行爲ノ其儘トモノニ同意ヲ表スルモノナラザルヘカラス若シ少シニテモ變更シテ承諾セハ是レ決シテ眞ノ承諾ニアラス却テ新ニ議案ヲ提出スルコトト爲ルモノナリ又「ラバント」氏ハ協賛ト承諾トノ區別ノ一點トシテ協賛ハ國家行爲ノ效力ニ必要ナル意思發表ナリ承諾ハ行爲ノ效力ニ必要ナラザル意思發表ナリト云フコトヲ認ムルモ承諾ハ事後ノ意思發表タルコトヲ必要トセス事前ニモ亦承諾ヲ爲スコトヲ得若シ其事前ニ承諾ヲ與フヘキ場合ニテ之ヲ與ヘナリシトキハ其行爲ノ效力ニハ毫モ影響ス及ホスモノニアラス何トナレハ承諾ハ行爲ノ效力ニ必要ナル意思發表ニアラザレハナリト曰ヘリ此說ハ獨逸ノ憲法ノ上ニ於テモ稍ヤ疑ハシキ說ニシテ我國ニ於テハ事前ニ承諾ヲ與フヘキ場合ハ殆ト之ナキナリ唯貴族院令ノ改正増補ノ場合ニ貴族院ノ議決ヲ經ヘシトアリ此場合ノ貴族院ノ議決ハ「ラバント」ノ解明事前承諾ニ類ス若シ事前承諾トスレハ此議決ナクシテ貴族院令ヲ發シテ仍ホ無効ノモノニアラスト謂ハザルヘカラス然レトモ此場合ノ貴族院ノ議



決ハ承諾ニアラス一種ノ協贊ナリ故ニ貴族院ノ議決ヲ經テハ貴族院令ヲ發  
 スルコトヲ得ス決シテ樞密顧問ノ諮詢ヲ受ケテ議決シタルモノトハ同一ニ視  
 ルコトヲ得ナルヘシ

第三 上奏ノ權ニ對シテハ、  
 各議院ハ天皇ニ上奏スルコトヲ得上奏ハ之ヲ分チテ儀式上ノ上奏及ヒ政治上  
 ニ關スル上奏ノ二種ト爲スコトヲ得儀式上ノ上奏トハ祝賀吊傷ノ表詞ヲ奉リ  
 或ハ勅語ニ對シテ奉答文ヲ呈スルヲ謂フ政治上ノ上奏ノ重ナル場合ハ政府ノ處置ニ異  
 ナ議會ノ意見ヲ奏聞スルヲ謂フ然レトモ上奏ノ重ナル場合ハ政府ノ處置ニ異  
 議ヲ唱ヘ其取消ヲ請求シ又ハ國務大臣ノ進退ニ關スルゴトヲ奏聞スル場合ナ  
 リ天皇ハ上奏ニ對シテ答辯スル義務ナキモ上奏ノ受領ヲ拒ムコトヲ得ス或學  
 者ハ上奏ハ手紙ヲ贈ルト同一ニシテ答辯ノ義務ナキコトハ勿論之ヲ受領スル  
 モ受領セザルモ至ク天皇ノ隨意ナリト曰ヘリ然レトモ苟モ憲法ニ於テ議會ニ  
 特別ノ上奏ナル權限ヲ與ヘタル以上ハ天皇ニモ亦之ニ相當スル義務ナカルヘ  
 ガラス故ニ天皇ハ必ス之ヲ受領セザルヘカラス上奏ハ政治上ニ於テハ非常ニ

重要ナルモノナリト雖モ法律上ニ於テハ唯之ヲ受領スル義務アリト云フニ止  
 マリ他ニ何等ノ效力ヲ生セズ其主義ヲ採用スルト然ラザルトハ至ク天皇ノ  
 隨意ナリ

第四 建議  
 第五 質問及ヒ報告ノ請求  
 第六 請願ノ受領及ヒ送付  
 第七 訴訟ノ提起  
 第八 議會内部ノ事ニ關スル權限  
 一 議員ノ資格審査  
 二 議院内部ノ整理ニ必要ナル規則ヲ定ムルコト  
 三 議員ニ對シテ懲罰スルコト  
 四 議院内部ノ職員ノ選任

### 第三節 議會ノ召集、開會、停會、閉會及ヒ解散

勅命又ハ選舉ニ依リテ帝國議會ノ議員ト爲ルヘキ者ハ一定スルモ未タ之ノミ  
ニテハ議會カ成立セリト謂フコトヲ得ス議員自ラ集會スルモ國法上有効ノ議  
決ヲ爲スコトヲ得ス帝國議會カ國家ノ機關トシテ作用ヲ爲スニハ天皇ノ召集  
ノ命令ニ由ラサルヘカラス貴族院衆議院ハ相合シテ一ノ帝國議會ヲ形成スル  
モノナルカ故ニ其召集ハ兩院同時ニ之ヲ爲スコトヲ必要トス若シ一議院ノミ  
召集スルコトアリトセハ縱令集會スルモ國法上有効ノ議決ヲ爲スコトヲ得ス  
唯茲ニ少シク疑ハシキハ憲法第四十四條ト第四十五條ノ規定是ナリ憲法第四  
十五條ニハ衆議院解散セラレタルトキハ新ニ議員ヲ選舉セシメ五箇月以内ニ  
之ヲ召集スヘシトアリ而シテ第四十四條ニハ帝國議會ノ開會閉會ハ兩院同時  
ニ之ヲ行フト規定シ兩院同時ニ召集ストハ規定セス且ツ第四十四條第二項ニ  
衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ貴族院ハ停會セラルヘシト言ヒ閉會セラル  
ヘシトハ言ハス故ニ衆議院解散後ニハ唯衆議院ノミヲ召集シテ貴族院ハ召集  
セスシテ不可ナキカ如シ然レトモ第四十五條ニ召集ストアルハ五箇月以内ニ  
召集ストノ規定ニシテ必スシモ衆議院ノミヲ召集ストノ意味ニアラス且ツ衆

議院解散後ノ議會ノ會期ハ新ニ起算スヘキモノナリ而シテ會期ハ貴族院衆議  
院共ニ同時ニ始マリ同時ニ終ルヘキモノナルカ故ニ會期ノ起算點タル召集モ  
亦同時ニ之ヲ爲ササルヘカラス故ニ召集ハ常ニ兩院同時ニ之ヲ爲ササルヘカ  
ラス議會ヲ召集スヘキ場所ハ法律上別ニ一定セサルカ故ニ天皇カ任意ニ定ム  
ル所ニ依ルヘキモノナリ議會ハ毎年一回ハ必ス之ヲ召集セサルヲ得ス而シテ  
其召集スヘキ時期ハ法律上一定セサルカ故ニ天皇ノ任意ニ定ムル所ニ依ルヘ  
キモノナリ此毎年一回召集セサルヘカラサル所ノ議會ハ之ヲ通常會ト曰フ然  
レトモ臨時緊急ノ必要アル場合ニ於テハ臨時會ヲ召集スルコトヲ得ヘシ天皇  
カ議會ヲ召集スルトキハ其會期ニ付テ通常會ノ場合ニハ別ニ明言セサルモ臨  
時會ノ場合ニハ豫メ定メテ之ヲ公告ス此議會ノ會期ハ何時ヨリ起算スルコト  
ノナルカ議會ノ先例ニ依レハ開會ノ日即チ開院式ノ當日ヨリ起算スルコトト  
爲レリ然レトモ開院式ヲ行フ前ニ當リテ衆議院ニ於テハ議長副議長ノ候補者  
ヲ選舉ス又貴族院衆議院共ニ部別ヲ爲レ部長ヲ選舉ス此等モ亦議院ノ作用ナ  
リ議院カ其作用ヲ爲スニ開期中ニ於テ之ヲ爲スモノニアラストスルハ如何ニ

モ不穩當ナリト謂ハサルヘカラス且ツ憲法第五十三條ニ依ルハ兩院ノ議員ハ開期中其院ノ許諾ナクシテ逮捕セラルルコトナシトアリ若シ開期ハ開會ノ日ヨリ始マルモノトスレハ議長副議長ヲ選舉スル際ニ當リテモ其院ノ許諾ナクシテ議員ヲ逮捕スルコトヲ得ルモノト謂ハサルヘカラス然レトモ議長副議長ノ選舉ノ如キ議會ニ於テ最モ重要ナル作用ヲ爲スニ當リテ何故ニ保護ヲ受ケサルヤ之ヲ説明スルコトヲ得ス故ニ會期トハ議院ノ作用ヲ爲スヘキ期間ニシテ召集當日ヨリ起算スルヲ穩當ナリト信ス

衆議院解散セラレタルトキハ勅令ヲ以テ新ニ議員ヲ選舉セシメ解散ノ日ヨリ五箇月以内ニ帝國議會ヲ召集ス此解散後召集スヘキ議會ニ於テハ其會期ハ如何ニ定ムヘキモノナルカ之ニ就テ多少ノ疑アリ即チ解散後ノ議會ハ通常會ナルカ將タ臨時會ナルカ頗ル議論アル所ナリ或學者ハ曰ク臨時會ヲ開クニハ臨時緊急ノ必要アル場合ナリ其必要トハ必スシモ事實上必要ナル場合ニ限ラス法律上必ス議會ヲ召集セサルヲ得サル場合ニ於テモ召集ノ必要アリト謂フコトヲ得憲法第四十五條ニハ解散後五箇月以内ニ議會ヲ召集スルコトヲ規定ス

故ニ通常會ヲ開クヘキ時期ニ先チテ五箇月ノ期限ノ盡タル場合ニ於テハ通常會ヲ待フコトヲ得サル法律上ノ必要ヲ生ス即チ臨時會ヲ開クヘキ要件ヲ具備ス故ニ臨時會トシテ召集スルコトヲ得若シ又五箇月ノ期限ノ盡キサル以前ニ通常會ヲ開クヘキ時期ニ達シタルトキハ直チニ通常會ヲ開クコトヲ得此場合ニハ通常會ヲ待フコトヲ得スト云フ必要アルニアラサルカ故ニ之ヲ臨時會ト謂フコトヲ得ス故ニ解散後ノ議會ハ場合ニ依リテ或ハ通常會タルコトアリ或ハ臨時會タルコトアリト此說ハ頗ル巧ナル說ノ如シト雖モ之ニ賛成スルコトヲ得ス何トナレハ此說ハ通常會ヲ開クヘキ時期ニ達スルト然ラザルトニ依リテ解散後ノ議會ノ通常會タルト臨時會タルトヲ區別セントスト雖モ其所謂通常會ノ時期ハ憲法上一定セサルヲ以テナリ又必要ト謂フハ必スシモ事實上ノミナラス法律上開會セサルヘカラサル場合ヲ含ムトモハ通常會ト雖モ毎年二回ハ之ヲ開カサルヘカラサルコトハ法律上ノ必要ニ出ルモノナルカ故ニ又之ヲ臨時會ナリト謂ハサルヲ得サルニ至ル又他ノ學者ハ曰ク解散後ノ議會ハ通常會ニアラス何トナレハ定期ニ開クモノニアラザレハナリ又臨時會ニモナラ

ス何トナレハ臨時會トハ憲法第四十三條ニ依リテ臨時緊急ノ必要ナル場合ニ開クモノナレハナリ故ニ解散後ノ議會ハ臨時會ニモアラス又通常會ニモアラス一類ノ特別會ナリ而シテ通常會臨時會ノ場合ニハ會期ニ關スル規定アルモ解散後ノ議會ニ付テハ別ニ規定ナキカ故ニ天皇カ自由ニ其會期ヲ定ムルコトヲ得ト然レトモ定期トハ何時ナルカ憲法上之ヲ知ルコトヲ得サルカ故ニ解散後ノ議會ハ定期ニ開カサルモノトモ謂フコトヲ得ス予ノ信スル所ニ據レハ衆議院解散後召集スヘキ議會ハ或ハ通常會トシテ召集スルコトヲ得ヘシ或ハ臨時會トシテ召集スルコトヲ得ヘシ又或ハ特別會トシテ召集スルコトヲ得ヘシ憲法第四十一條ニ依レハ毎年帝國議會ヲ召集ストアリ故ニ天皇ハ少クモ一回ハ必ス帝國議會ヲ召集セザルヲ得ス然レトモ唯一回召集サヘスレハ則チ可ナリト謂フニアラス憲法第四十二條ニハ帝國議會ノ會期ハ三箇月トストアリ故ニ天皇ハ會期ヲ三箇月トスル議會ヲ毎年一回ハ必ス召集セザルベカラズ憲法第四十三條ニ通常會ノ外臨時會ヲ召集ストアリ此常會トハ即チ法律上ノ必要ニ基キテ會期ヲ三箇月トスル帝國議會ヲ謂フモノナリ會期ヲ三箇月上ス

ル議會ハ毎年常例トシテ之ヲ召集セザルベカラズ故ニ之ヲ常會ト云スルナリ今解散後五箇月以内ニ此通常會ヲ召集スルトキハ一方ニハ第四十五條ノ規定ニ適合シ一方ニハ第四十一條第四十二條ノ規定ニ適合スヘシ即チ五箇月以内ニ之ヲ召集スレハ第四十五條ノ條件ハ之ヲ充タスコトヲ爲ル又會期ヲ三箇月トスル議會ヲ召集スレハ憲法第四十一條第四十二條ノ條件ハ之ヲ充タシタルモノト謂フコトヲ得又五箇月以内ニ臨時緊急ナル事件ノ生シタル場合ニハ臨時會トシテ召集スレハ第四十三條ノ規定ニ從フ行爲タルト同時ニ又第四十五條ノ規定ニ適合スルノ行爲ト謂フコトヲ得ヘシ然レトモ臨時緊急ノ必要ナク又通常會ヲ召集スヘキ必要ナキトキハ特別會トシテ召集スルモノ何等ノ差支ヲ生スルコトナシ斯ル場合ノ議會ハ臨時緊急ノ必要アルトキニ召集セタルモノニナラサルカ故ニ之ヲ臨時會ト謂フコトヲ得ス又此場合ノ議會ハ通常會ニモアラス蓋シ通常會トハ毎年ノ常例トシテ會期ヲ三箇月トスル議會ヲ召集スヘキ法律上ノ拘束ニ依リテ生スルモノヲ謂フ會期ヲ三箇月トスヘキ法律上ノ拘束ヲ受クルハ唯通常會ノミニ限ル故ニ此場合ノ議會ノ會期ハ天皇カ自由

三 定ムル所ニ依ラサルヘカラス天皇ハ議會ヲ召集スルコトヲ得而シテ其場所  
及ヒ時期ハ憲法上別ニ定ムル所ナキカ故ニ召集權ヲ有スル者カ自由ニ之ヲ定  
ムルコトヲ得ト解釋スルノ外ナシ之ト同シク天皇ハ議會ヲ召集スルハ開會閉會  
ヲ命スルコトヲ得何日ニ召集シテ何日ニ閉會スルヤハ原則トシテハ天皇カ自  
由ニ定ムルコトヲ得ト謂ハサルヘカラス即チ議會ノ作用ヲ開始シ及ヒ終了ス  
ル時期ヲ定ムルコトヲ得ハ是レ自然ニ會期ヲ定ムルコトヲ得ト謂ハサルヘカ  
ラス

議會ヲ召集スルニハ勅令ヲ以テ期日ヲ定メ少クとも四十日前ニ發布セサルヘ  
カラス議員カ定マリタル期日ニ集會シテ議會成立後ニ勅令ヲ以テ開會ノ日ヲ  
定メ開院式ヲ行フ此開會ハ召集後何日マテニ爲ササルヘカラサルカ之ニ付テ  
ハ二ツノ説ヲ立ツルコトヲ得ヘシト思惟ス即チ第一ニハ憲法ニハ毎年議會ヲ  
召集スル又五箇月以内ニ召集ストアリ然レトモ開會ストハアラス故ニ毎年開會  
スルヲ必要トセス又五箇月以内ニ開會スル必要ナシ解散後ノ議會ニ於テハ次  
ノ議會ノ召集前ニ會期ヲ終了スヘキ猶豫ヲ存シテ開會スレハ則チ足ル又通常

ノ議會ニハ次ノ年度ノ豫算案ヲ提出セサルヘカラス而シテ總豫算ハ次ノ會計  
年度ノ開始前ニ之ヲ議了セサルヲ得ス故ニ次ノ會計年度ノ開始前ニ開會ヲ終  
了スヘキ猶豫ヲ存シテ開會スレハ則チ足ルト云フ説ヲ立ツルコトヲ得此説ハ  
開會ヨリ會期ヲ計算スルモノニシテ予ノ計算方法トハ全ク異ナル説ナリ又第  
二ニハ議會ノ會期ハ議會ノ作用ヲ始ムル時ヨリ起算スヘキモノニシテ其會期  
中ニ開會スレハ則チ足ル故ニ解散後ノ議會ニ於テハ會期ノ盡ル日ニ於テ開會  
スルモ毫モ差支ナシ通常會ニ於テハ總豫算ヲ議定スヘキモノナルカ故ニ之ヲ  
議定スルニ必要ナル法律上ノ期間ヲ存スレハ則チ可ナリ而シテ議院法第四十  
條ニハ豫算委員ハ豫算案ヲ受取りタル日ヨリ十五日以内ニ審査報告スヘシト  
アルカ故ニ少クとも會期ノ盡クル十五日以前ニ開會スレハ足ルト此説ニ據レ  
バ開會ノ日ヨリ幾日間ヲ經テ開會スヘシトノ規定ナシ即チ閉會ト開會トノ間  
ニ幾日間ヲ存セサルヘカラサルカノ法律上ノ制限ナキカ故ニ唯門會ノ命令ヲ  
下シ又閉會ノ命令ヲ下シタニスレハ憲法議院法ニ毫モ牴觸スル所ナキカ故ニ  
總令一日間ニ開會閉會スルモ不可ナキナリ唯通常會ノ場合ニハ總豫算ヲ提出

モナルカ故ニ議院法ノ規定ニ從ヒテ閉會ヨリ十五日前ニ開會スレハ可ナリト  
附ハサルヘカラザルニ至ル然レトモ尙モ議會ヲ召集スル以上ハ唯議院ノ成立  
ニ關スル作用ノミナラス法律豫算等ヲ適當ニ議定シ得ヘキ期間ヲ存セザル  
カラスト思惟ス故ニ予ノ解スル所ニ據レハ議會ニシテ成立スレハ直チニ開會  
モサルヘカラストス若シ然ラストセハ議會ノ召集ハ全ク意味ナキニ了ランナ  
リ殊ニ豫算案ノ如キハ一兩日間ニ議了スルコトノ到底望ムヘカラザルコトナ  
リ斯ル爲シ尙ハサルコトヲ法律カ豫メ定ムルトセハ即チ法律ハ豫算ノ議定ヲ  
初ヨリ希望セザルモノト謂ハサルヘカラスト故ニ第二說ノ解釋ノ如キハ決シテ  
適當ナル解釋ト謂フコトヲ得ス且ツ予ノ信スル所ニ據レハ毎年若クハ五箇月  
以內ニ召集ストアレハ毎年若クハ五箇月以內ニ召集開會ストノ意味ナリトス  
固ヨリ召集當日ニ開會セザルヘカラスト謂フニアラザルモ召集ハ議會ノ作用  
ヲ爲サシムル爲メニ各議員ヲ集會セシムルモノナリ故ニ五箇月以內ニ召集ス  
ヘシトアレハ五箇月以內ニ開會シテ議會ノ作用ヲ惹起サシムヘシトノ意味ナ  
リト信ス

議會ノ會期中議事ヲ停止スルコトアリ之ヲ停會ト曰フ停會ハ天皇之ヲ命ス尤  
モ議院法第三十三條ニハ政府ハ何時タリトモ停會ヲ命スルコトヲ得トアルモ  
政府カ獨立シテ之ヲ命スルヲ得ルユアラスタ皇ノ命ヲ奉シテ之ヲ爲スヘキ  
ノナリ此停會ハ十五日以上ニ亘ルコトヲ得ス外國ノ憲法ニ於テハ一會期中ニ  
停會ヲ重スルコトヲ得ストノ規定ヲ設クルモノアレトモ我國ニ於テハ此ノ如  
キ規定ナキカ故ニ一會期中ニ幾度之ヲ行フモ妨ケナシ此停會ノ命令アレハ貴  
族院衆議院共ニ其議事ヲ總テ中止セザルヘカラスト然レトモ其停會ノ期間ヲ經  
過スレハ再ヒ召集開會スルヲ要セス又未ダ議了セザリシ議案ヲ再ヒ提出スル  
ヲ要セスシテ前ノ議事ヲ其儘繼續スルコトヲ得ルナリ  
一タヒ召集開會セラレタル議會ハ恣ニ自ラ其議事ヲ中止シテ停會スルコトハ  
得ス然レトモ議長ハ自ラ其議事日程ヲ定ムルコトヲ得而シテ其議事日程ノ中  
間ニ多少ノ休息時間ヲ挿ムコトヲ得是レ議案ノナキ場合又ハ委員會ニ調査ノ  
猶豫ヲ與フルニ必要ナリ其他各議員ノ申合ニ因リテ集會セザルコトアリ斯ル  
場合ハ之ヲ休會ト曰フ休會ハ實際停會ト酷ク相似タルモ法律上同クノモノ

アラス停會ハ議會ノ總テノ作用ヲ停止スヘキモノニシテ權令停會中ニ議決ス  
ルコトアルモ是レ無効ノ議決ナリ然レトモ休會ハ唯事實上其議事ヲ中止スル  
ニ過キサルモノナリ豫メ休會ノ期間ヲ定メタル場合ト雖モ何時ニテモ議會ハ  
集會シテ議事ヲ開クコトヲ得停會ハ法律上其作用ヲ爲スコトヲ許ササルモ  
ナリ休會ハ唯事實上議會カ其作用ヲ中止スルモノナリ  
停會ノ期間モ亦會期中ニ屬ス會期中トハ召集ノ日ヨリ開會マテノ期間ヲ謂フ  
議院法ニ依レハ停會ノ期間經過後ハ別ニ召集ノ手續ヲ履ムコトヲ要セスシテ  
再ヒ會合セテ前回ノ議事ヲ繼續スルコトヲ得ルモノナルカ故ニ停會ノ期間中  
モ仍ホ會期中ニ屬スルモノト謂ハサルヘカラス  
此帝國議會ノ停會ト衆議院解散ノ時ノ貴族院ノ停會トハ全ク其性質ヲ異ニス  
ルモノナリ解散ハ唯衆議院ニノミ行フモノナルモ兩院制度ノ原則トシテ貴族  
院ト衆議院トハ總テ同時ニ作用セサルヘカラスナルモノナルカ故ニ衆議院解散  
ノ場合ニハ貴族院獨リ其作用ヲ爲スコトヲ得ス故ニ停會ト爲ルモノナラ然レ  
トモ衆議院カ解散セラレテ新ニ議員ヲ選舉シタル後ハ兩院ヲ共ニ新ニ召集シ

條約ハ之ヲ實行スルコトヲ得ス然レトモ國家ハ締盟國ニ對シテハ依然トシテ  
條約上ノ義務ヲ負擔スヘク故ニ或場合ニハ條約違反ノ爲メ開戦スルノ已ムヲ  
得サルニ至ルコトアリト言ヘリ此議論ハ甚タ明白ナレトモ國家ノ權力國家ノ  
意思此ノ如ク統一セサルコトハ國法ノ精神及ヒ國際法ノ精神ニアラサルヘシ  
或ハ曰ク此困難ヲ避ケントセハ批准前豫メ議會ノ同意ヲ得ルカ又ハ條約中ニ  
於テ議會ノ協賛ヲ條件トセハ可ナラント言ヘリ然レトモ是レ便宜論ニ過キス  
シテ法律上此ノ如クナルヘント論斷スルコトヲ得スホルンハクテ如キハ議會  
ノ同意ヲ以テ條約ノ締結ノ爲メ必要ナリト論セリ即チ議會ノ同意ナクシテハ內  
部ニ於テ效ナキノミナラス外部ニ對シテモ亦無効ナリト言ヘリ此議論ハ少ク  
モ我國法上ノ解釋タルコトヲ得ス如何トナレハ天皇ノ條約締結權ハ議會ノ協  
賛ヲ待テテ然ル後行ハルルモノニアラス且ツ一般ニ論スルモ外國ノ國家ハ締  
盟國ニ於テ果シテ議會ノ協賛アリシヤ否ヤヲ調査シ其協賛アリシコトヲ明カ  
ニシテ而シテ條約ヲ締結スヘキノ義務アルモノニアラス左レハ此論モ亦不可  
ナリ或ハ曰ク國家ノ作用ハ憲法ニ依リテ羈束セラルルコト當然ニシテ外國ト

條約ヲ締結スルニ當リテモ亦憲法ニ違反スルコトヲ得ス而シテ法律ヲ要スル如キ條約ヲ締結スルニハ法律ニ依リテ條約ヲ實行スルコトヲ豫約スルモノナリ換言スレハ議會ノ協賛ヲ條件トシテ條約ヲ締結スルナリ故ニ若シ議會ニ於テ協賛セサルトキハ條約ハ實行ノ條件不成就ノ故ヲ以テ當然行ハレサルモノトセリ隨テ約東違反ト謂フコトヲ得スト言ヘリ畢竟條約ハ條件附ノ性質ヲ有スルモノナリト云フニ在リ予ハ此論ニ對シテモ亦疑ナキヲ得ヌ即チ國內法ト國際法トノ混同ナキカヲ疑フ者ナリ國內法ヨリスルトキハ憲法的ノ行爲ニアラサレハ無効ナリト謂フコトヲ得ルモ國際關係ニ至リテハ一國ノ憲法ヲ以テ之ヲ律スルコトヲ得ヌ憲法ハ國內法ニシテ國ト國トノ關係ヲ支配スルモノニアラス故ニ一國ハ他國ノ憲法ニ依リテ之ヲ條件トシテ條約ノ有效無効ヲ定ムルノ義務ナシ國際上主權者ノ締結セル條約ハ初ヨリ有效ナルモノナリ故ニ議會ノ協賛ナケレハ仍ホ條約違反ノ結果ヲ生スルヲ免レス

以上各種ノ說ハ未タ此問題ヲ解釋シ得ルモノニアラス蓋シ巴ニ述ヘタルカ如ク條約ト法令トハ其關係ヲ異ニシ前者ハ國家間ノ關係ニシテ後者ハ國家ト臣

民トノ關係ナリ二者各其相手方ヲ異ニスルカ故ニ其ニ成立シ得ルモノトス抑モ法律學上人ハ同時ニ二箇ノ相反セル意思ヲ有シ得ルモノニアラス若シ此ノ如キ場合アリトセハ二者何レカ其一ニ依ルノ意思ナリトセサルヲ得ヌ故ニ國家カ條約ヲ締結スルニ當リ其實質ノ法律ト抵觸スル所アリトセハ此場合ニ於テ其意思ヲ推測スルトキハ其衝突ノ生セサル前ニ當リテ其一方ヲ變更スルノ意思ナリト看テ可ナリ即チ前ノ場合ニ於テハ條約ハ對等ノ人格者間ノ約束ニシテ勝手ニ之ヲ變更スルコト能ハス左レハ國家ハ其衝突スヘキ法律ヲ變更スルノ意思アリト看テ可ナリ此意思統一ノ主義ニ依リ憲法ヲ解釋シテ國家ノ機關タル議會ハ此場合ニ於テハ之ニ協賛ヲ爲シ以テ衝突ヲ避クルノ義務アリト謂フヘシ元來議會ノ協賛權ハ必スシモ絕對無制限ナルモノニアラス憲法ニ於テ天皇大權ノ隨意活動ヲ認メタルトキハ議會ノ權限ハ之カ爲メニ制限セラルルト謂ハサルヲ得サレハナリ

## 第二章 軍務行政



憲法第十一條ニ曰ク「天皇ハ陸海軍ヲ統帥ス」ト同シク第十二條ニ曰ク「天皇ハ陸海軍ノ編制及ヒ常備兵額ヲ定ム」ト此等ノ條ニ規定スルハ即チ天皇ノ大權ナリ行政法ノ關スル所ニアラス然レトモ大權ト行政トノ區別ハ疑問ノ生シ易キ所ニシテ既ニ述ヘタル如ク軍務ニ付テモ總テ之ヲ行政ノ外ニ置ク者アルカ如シ然レトモ余ハ同シク軍務ニテモ大權ノ働及ヒ行政ノニニ區別シ得ヘント考フ大權トハ即チ憲法ニ規定スル統帥編制ノ務ナリ統帥トハ兵馬ノ全權ヲ統ヘ給フノ義ニシテ編制トハ陸海軍ノ粗立ヲ定ムルノ權ナリ彼ノ憲法義解ニ記スル如キ兵器ノ備用給與軍人ノ教育檢閲紀律禮式服制衛戍城寨及ヒ海防守港等總テ大權ノ内ニ包含スト考フルハ甚タ不可ナリ

軍務行政ヲ説クニハ先ツ兵制ヨリ始メントス

兵制ニ付テハ第一「備兵ノ制」第二「國民軍ノ制」第三「國民皆兵ノ制」三種ニ大別スルコトヲ得第一ノ制度ハ兵士ヲ備入ルルモノニシテ合意關係ニ基クモノナリ此方法ニ依リテハ十分ノ兵力ヲ整フルコト難シ英國ノ如キ主トシテ此制度ニ據ル是レ其國情ノ專ヨリ陸軍ニ重キヲ措カサルヲ結果ナリ而シテ近來ニ至リテ

ハ大ニ陸軍ノ不完全ヲ感スルニ至レリト云フ次ハ國民軍ノ制度ニシテ國民一般ニ兵役義務ヲ負擔セシムルヲ原則トス然レトモ其召集ハ唯戰時ニ於テスルヲミシ此制度ハ軍隊ノ訓練ヲ缺キ戰鬥力ノ薄弱ナラシムルコトヲ免レス第三ノ國民皆兵ノ制度ハ總テ兵役ニ堪フル丁年者ニ兵役ノ義務ヲ負ハシメ常ニ訓練ヲ施シ軍事ノ教育ヲ興フルモノトス

我國ノ戰鬥力ハ陸軍海軍ノ二ニ分チ全國ノ壯丁ヲシテ兵役ニ服セシム其中ニ在リテ沿海ノ住民ニシテ舟楫波濤ニ慣レタル者ヲ盜軍ノ兵員ニ充ツ徵兵令ニ依ルトキハ日本臣民ニシテ滿十七年乃至四十年ノ男子ハ總テ兵役ニ服スルノ義務ヲ有ス兵力ヲ分チテ常備軍後備軍及ヒ國民軍ノ三トス軍隊ノ訓練ハ國民ニ軍事上ノ教育ヲ與フルニ在リ若シ一朝戰時若クハ事變ニ際會スルトキハ軍隊ノ組織ハ平時ヨリ戰時ニ移ル之ヲ稱シテ動員ト謂フ此場合ニ於テハ現役ノ外常備軍中先ツ豫備兵及ヒ補充兵ヲ召集シ次ニ後備軍終ニ國民軍ニ及フ蓋シ國民ノ國家ニ供給スル義務ニ二種アリ一ハ資產上ノ義務ニシテ一ハ身體上ノ義務ナリ軍事ニ關シテモ亦同シク徵發等ニ依リテ財產ヲ供給スルハ前者ニ

屬シ兵役ハ即チ後者ニ屬ス兵役ノ義務ハ憲法ニ於テ納税ノ義務ト共ニ規定セラレタリ然レトモ兵役ハ納税義務ト異ナリ原則トシテ國民的ノ義務ナリ故ニ一面ヨリ觀レハ日本臣民ノ榮譽タリ

兵役ヲ分チテ常備兵役後備兵役補充兵役及ヒ國民兵役ノ四種トス常備兵役ハ更ニ之ヲ分チテ現役及ヒ豫備役ノ二トシ現役ハ滿二十年ニ達シタル者之ニ服シ豫備役ハ現役ヲ終リタル者之ニ服ス而シテ後備兵役ハ常備兵役ヲ終リタル者之ニ服ス補充兵役トハ其年所要ノ現役兵員ニ超過スル者之ニ服シ國民兵役ハ以上ノ兵役ニ服セスシテ而モ兵籍ニ在ル者皆之ニ服ス

陸軍ノ現役兵及ヒ補充兵ハ每年所要ノ人員ニ應シテ壯丁ノ身材藝能又ハ職業ニ從ヒ步兵騎兵工兵砲兵輜重兵職工兵及ヒ雜卒ニ區別シ當業者ヲ以テ之ニ充ツ海軍ニ於テハ沿海地方及ヒ島嶼ノ壯丁ヲ調査シテ之ニ適スル職務ニ應シ水兵火夫職工及ヒ雜卒等ニ區別シテ同シク抽籤ニ依リテ之ニ充テ縱令二十年未滿ナルモ十七年以上ノ者ハ志願ニ依リテ現役ニ服スルコトヲ得十七年以上二十八年以下ニシテ徵兵令第十三條ニ規定セル學校ノ卒業證書ヲ有スルカ若ク

ハ試験ニ及第セシ者ハ尙ホ志願ニ依リテ一箇年間ノ服役ヲ許ス又官公立小學校ノ教職ニ在ル者ハ六箇月間現役ニ服セシムルコトヲ得

以上ハ服役義務ノ大體ナリ或ハ此義務ヨリ除外セラルル者アリ又或ハ兵役ヲ免除セラレ又ハ徵集ヲ延期セラレ或ハ猶豫セラルル場合アリ除外ノ場合ハ例ハハ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ服役ヲ許アサル如キ及ヒ禁錮ノ刑ニ處セラレ若クハ賭博犯ニ因リ處罰セラレタル者ハ一年志願兵タルコトヲ得サルカ如キ是ナリ次ニ免役ノ場合ハ廢疾又ハ不具等ニシテ兵役ニ堪ヘサル者ニ限ル又延期ヲ許スベキ者ハ身體未タ完全ナラサルカ又ハ公權劍養若クハ停止ヲ附加スベキ犯罪ノ爲メニ訊問若クハ拘留中ノ者及ヒ本人徵集ニ應スルトキハ其家族ノ自活スル能ハサル確證アル者ニ對シテモ亦之ヲ許ス終ニ猶豫ハ徵兵令第十三條ニ規定セル學校ニ在ル者ニ對シテハ二十八年ニ至ルマテ亦朝鮮以外ノ外國ニ在ル者ニ對シテハ三十二年ニ至ルマテ行ハル

服役義務ヲ有スル者届出ヲ爲ササルカ又ハ正當ノ事故ナクシテ検査ヲ受ケサルカ或ハ兵役ヲ免ルル爲メ逃亡又ハ潛匿シ若クハ疾病ヲ作爲シ其他詐欺ノ行

爲アルトキハ處罰セラレ、  
 徴兵事務ヲ行フカ爲メニ徴兵區ヲ設テ徴兵區ハ師管及ヒ聯隊區又ハ警備隊區ノ區域ニ從テ聯隊區及ヒ警備隊區ハ更ニ徴募區ニ分ツ一郡若クハ一市ヲ以テ一區トス徴兵事務ヲ行フ者ヲ徴兵官ト謂フ毎年現役兵及ヒ補充兵ハ壯丁ノ總數ヲ標準トシテ各區ニ分賦ス  
 凡ソ徴兵事務ニ關スル問題ヲ決スル手續ハ之ヲ分チテ假決ト終決トノ二トス此等ハ聯隊區若クハ警備區ノ徴兵官若クハ司令官之ヲ爲ス或場合ニ於テハ此裁決ニ對シテ總理徴兵官ニ訴願スルコトヲ許ス  
 以上ハ身體上ノ義務ニシテ之ニ對シテハ資産ヲ供給スルノ義務ヲ説明スルヲ要ス先ツ徴發令ニ付キ略說スヘシ  
 徴發ハ素ト命令權ノ作用ニシテ強制シテ行フモノナリ現行法ノ規定トシテ之ニ對シテ賠償ヲ與フルコトトス元來徴發ハ租税ノ如ク一般且ツ平均ニ負擔セシムルモノニアラサルカ故ニ之ニ對シテ賠償ヲ與ヘ負擔ヲ平均セシムルハ至當ノ方法ナリ徴發ハ特別ノ必要ニ因リ特別ノ物品ヲ徵收スルモノニシテ租税

ノ如ク金錢上ノ負擔ニアラス又金錢ヲ以テ代納スルヲ許スルキ性質ノモノニアラズ徴發令ニ依ルトキハ徴發ハ戰時若クハ事變ニ際シテ陸海軍ノ全部若クハ一部ヲ動かスニ當リ其必要ノ軍需ヲ人民ニ賦課スルモノナリ但シ平時ニ在リテモ演習又ハ行軍ノ際ハ之ニ準ス  
 徴發ハ陸軍又ハ海軍官憲ノ徴發書ヲ以テ之ヲ行フ徴發物ノ種類ニ依リテ徴發區ヲ定ム一府縣二郡區三町村是ナリ會社モ亦區ニ準スルモノトス徴發書ハ府縣知事等ニ向ヒテ發セラレ之ヲ受ケタル者ハ時期ヲ誤ラス供給ヲ全カラシムルノ責アリトス此責任タル國ノ機關トシテノ責任ニシテ供給ノ義務ヲ負フニアラス畢竟義務者ヨリ供給ヲ爲サシムル手續ヲ行フノ責任アルモノトス隨テ適當ノ處置ヲ爲サシムルハ罰ヲ免レズ徴發ノ目的物ハ戰時及ヒ平時ニ通スルモノト戰時ニ限ルモノトアリ主トシテ物件ナレトモ稀ニ勞力ヲ徵收スルコトアリ而シテ勞力ハ金錢ニ換算スルヲ得ヘキモノニシテ國家ハ之ニ對シテ同様ニ賠償ヲ爲スコトトス結局前ニ述ヘタル如ク徴發ハ財産上ノ關係ニ歸スル事ヲ兵役ノ如ク一身ヲ捧ケテ國家ニ盡ス場合ト自ラ區別セラル故ニ外國人ト雖

此義務ヲ免レサルナリ徵發ノ目的物ニシテ戰時及平時ニ通スルモノハ徵發令第十二條ノ規定スル所ニシテ例ヘハ米麥車馬宿舍等是ナリ戰時ニ限ルモノハ被服病院職工等ノ種類ニシテ次條ニ規定セラル此等ノモノハ法文ニ細密ノ規定ヲ設ク然レトモ何故ニ此條ニ規定スルモノハ徵發スルヲ得レトモ其他ノモノハ然ラサルヤ例ヘハ米麥ハ徵收ノ得ヘキモ豆ノ如キハ徵收シ得サルカ其制限ヲ設ケン理由ハ之ヲ知ルニ苦ムナリ同第十四條第十五條ニハ前述セルモノノ内特ニ免除ヲ受クヘキ種類ヲ列叙ス例ヘハ皇族用ノ車馬外國公使館並ニ領事館ニ屬スル車馬郵便用ノ車馬ノ如クヨリトス以下尙ホ種種ノ制限ノ規定アレトモ今之ヲ略ス徵發ハ處分令ナリ之ニ對スル法律上ノ義務者ハ物件ノ所有者及ヒ勞力徵發ノ命令ヲ受ケタル者ナリトス或ハ曰ク徵發ニ對スル供給義務者ハ徵發區ニシテ各箇人ニアラスト成程形式上徵發書ハ其區ノ長官ニ向ヒテ發セラルト雖モ此等ノ官吏ハ區ヲ代表スルモノニアラス國ノ機關トシテ職務ヲ行フニ過キス故ニ供給不能ノ場合ニハ區カ其責ヲ負ハサルハ言ヲ埃タス唯同令第三十條ニ徵發物件ヲ差出場所ニ輸送スルハ徵發區ノ義務トシテ其輸送費ヲ

交辨セスト在リ此場合ハ唯一ノ例外ト看テ可ナリ  
徵發ヲ説クニ當リ序ニ一言セン元來國家ハ其權利トシテ國家公共ノ安寧ヲ維持シ幸福ヲ増進スルカ爲メ人ノ資産上ノ權利若クハ勞力ヲ徵收スルコトヲ得サルヘコトヲ是レ即チ廣義ニ於ケル徵收ノ權ナリ或ハ徵收權ト言ヘハ土地ノ公用徵收ニ限ルカ如クニ考ヘ或ハ土地ノミニ限ラストモ公用徵收ト稱シテ所謂内務行政ノ一部ニ限ルカ如ク考フルハ蓋シ概括セル觀念ニアラサルヘキカ既ニ本講義ノ始ニ述ヘタル如ク國家ノ目的ト公共ノ目的トハ常ニ一致スヘキモノニシテ二者ノ間ニ輕重ヲ置クコト能ハス隨テ理論上一ハ國家ノ目的ノ爲メニシ一ハ公共ノ目的ノ爲メナリトスルハ釋當ナラサルノミナラス一ハ直接ニ國家ノ目的ノ爲メニシテ間接ニ公共ノ目的ヲ一ハ直接ニ公共ノ目的ノ爲メニシテ間接ニ國家ノ目的ヲ一若ク分テテ觀察スルモノニシテ亦完全ナリト謂フコト能ハス一般學者ハ此目的ノ區別ヨリシテ行政ヲ大別シ公共ノ爲メニスルハ内務行政ニシテ國家ノ爲メニスルモノハ内務以外ノ行政ナリト論スレトモ予ハ此論ノ不完全ナルニアラサルヤ疑フ者ナリ此等ノ

四ニ付き詳細ハ内務行政ノ章ニ説明スヘキモノナレトモ茲ニ公用徴收ニ關聯  
シテ一言セシノミ畢竟今日一般學者ノ説明スル行政ノ區別即チ外務軍務財  
務内務司法ノ區別ハ實際ノ事務ノ分配ニ基キテ爲セルモノニシテ之ヲ以テ學  
理的ノ根據ニ基クモノト論スルハ予ノ未ダ首肯スル能ハサルモノナリ故ニ内  
務ハ學理上公共ノ爲メニスル行政ニシテ其他ハ國家ノ爲メニスルモノナリト  
言フハ不可ナリト考フ歐洲諸國ニ於テハ其國體カ共和ノ觀念ヨリ成立セルカ  
故ニ其學者ノ説タ所モ公共ト云フコトニ重キヲ置キ現ニ獨逸レトニングル如  
キハ其行政論ニ於テ内務行政ノミヲ説明セルカ如キ傾向ヲ有スルモ無理ナラス  
今日ノ法理トシテ國家ハ國民ノ集合體以外ニ人格ヲ有シ國民ハ國家ノ意思ニ  
服從セサルヘカラサルモノナレトモ歐洲ニ於テハ此觀念ハ實ハ一種ノ空想モ  
シテ國民團體ヲ外ニモテ國家アルヘカラス故ニ歐洲ニ於テハ國家ト一國ノ主  
長トハ之ヲ區別シ君主ハ國家ノ機關タリトスルニ拘ラス國家ハ一ノ空想ナル  
カ故ニ國家ノ意思ハ實ハ君主ノ意思ナリ而モ法理上國家ノ意思トシテ君主ト  
區別セント試ミ國民ハ國家ニ服從スレトモ君主ニ服從スルモノニアラスト考

トアルヲ以テ斯ル場合ニ於テ其證明ヲ爲スヲ得セシムルニ在ルモノトス  
方今古領軍隊ノ掠奪ヲ禁スルト同時ニ課金徴發ノ權利ヲ認ムル理由ハ兵士之  
直接ニ地方人民ニ對スル掠奪ハ之ニ伴フ慘狀モ其兵士ノ手ヲ下シタル一部人  
民ニ止マリ弊害甚シキニ拘ラス徴發及ヒ課金ハ普通古領地官衙ノ手ヲ經テ占  
領區域一般ヨリ現品又ハ金錢ヲ徴收スルヲ以テ古領地全體ノ負擔ニ屬シ又ハ  
敵國一般ノ負擔ニ了ルカ故ニ其害モ亦掠奪ニ比スレハ小ナルヲ以テナリ而シ  
テ徴發ハ兵士ノ簡便ニ此權利ヲ行使スルヲ許サスシテ軍隊ノ司令官又ハ支隊  
ノ指揮官ノ責任ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ賦課スルコト能ハス但シ徴發ハ課  
金ト其性質ヲ異ニシ徴發ニ於テハ軍隊日常ノ需用品ヲ徴收シ目前ニ切迫ノ專  
情ノ下ニ人民又ハ其財産ヲ收用スルモノナルニ由リ必スシモ課金ノ如ク司令  
長官若クハ古領地行政廳ノミニテ之ヲ賦課シ得ヘキニ止マラスシテ分隊ノ指  
揮官ト雖モ時宜ニ應ジテ徴發ヲ爲シ得ヘク那彼翁戰爭普佛戰爭及ヒ其他近世  
ノ戰爭ニ於テモ悉ク然ラサルハナシ然ルニ平和會議ノ陸戰例規第五十二條第  
二項ニ於テ徴發ハ古領地ニ於ケル司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ要求ス

ルコトヲ得スト規定セリ此規定タル徵發ノ賦課ヲ一層鄭重ニシ必ス司令官ノ責任ヲ以テスヘキコトト爲シタルモノナレドモ元來徵發ノ性質上直チニ此平和會議ノ決議ヲ今日ノ法則ト謂フコト能ハス何トナレハ占領軍隊ハ徵發ノ手續ヲ履ミテ其需要品ヲ取得スルノ途ナキトキハ其必要ニ依リ兵士ヲ派シテ田圃山林ニ於ケル穀物野菜又ハ鳥獸ヲ自ラ取得シテ糧食若クハ馬料ニ供シ又軍隊使用ノ薪炭若クハ木材ヲ刈伐スルモ戰時法則ニ於テ認ムル所ニシテ之ヲ名ケテ刈斫ト曰ヒ既ニ國際法上此權利ヲ承認スル所ナルニ由リ徵發ノ性質タル占領軍ニ屬スル軍隊又ハ支隊等ノ日常品ヲ賦課スルモノナレハ必スシモ司令官ノミニ於テ之ヲ課スヘキモノト謂フコト能ハサルコト明カナリ

徵發ハ占領地ニ於ケル地方廳ノ手ヲ經テ其地方全體ヨリ出サシムルモノトス而テ之ヲ賦課シ得ヘキ程度ニ付テハ學者間ニ議論アリタル所ニシテブルグセル宣言草案中ニハ課金及ヒ徵發ハ住民ヲ零落セシメタルノ注意ヲ以テ行フヘキコトヲ規定シタリシカ同會議ニ於テ議論ヲ生シ其賦課ノ程度ヲ占領地本國ノ軍隊カ其地ニ對シテ要求シ得ヘキ程度ト同一ニシテ得ヘント論セ成ハ占領軍

ガ自國人民ニ對シテ行ヒ得ヘキ徵發ノ程度ニ依ルヘシトシ或ハ單ニ軍隊ニ必要アル程度ニ一任スヘント論シタリシカ結局スル所ハ軍隊ノ敷地ニ於ケル行為ノ程度ニ付キ詳細ニ規定スル能ハス又其規定ヲ爲スモ實用ナシトノ理由ニ據リ遂ニ大體ノ法則ヲ設タルコトト爲レリ即チ同宣言第四十條ニ於テ私有財產ハ侵スヘカラサルヲ以テ敵軍ハ地方又ハ地方人民ニ對シ其地ノ貧富ニ應シ戰爭ノ必要ニ關シテ一般ニ是認セラルヘキ程度ニ於テ金錢物品ノ賦課又ハ勞役ヲ課シ得ヘシト規定セリ陸戰例規第五十二條ニ此文字ヲ改メテ其地方ノ狀態實力ニ相應スヘント爲セルコトハ前述ノ如シ而シテ實際ニ就テ觀ルトキハ近世ノ戰爭ニ於テハ軍隊政略上徵發ニ關スル行為ハ最モ寬大ニ赴キ課金徵發ヲ嚴酷ニスルトキハ其結果タル掠奪ト異ナル所ナキノミナラス其害毒ヲ受クヘキ範圍ハ掠奪ニ依ルヨリモ却テ大ニシテ多數窮民ノ強望ヲ來シ軍隊ノ行為ニ對シ防禦ヲ爲スヲ免レス千七百九十六年佛國軍隊ノ伊國ニ在リテハ軍隊ノ糧食ヲ侵掠地ヨリ出サシメ那破翁第一世ノ戰爭ニハ一戰爭ニ依リテ後ノ戰爭ヲ爲スノ軍用品ヲ敵國ニ取リタルモノニシテ西班牙國ニ於テ同帝ノ敗北セル

原因ハ主トシテ占領地ニ於ケル私有財産ヲ濫奪シ徵發セタルカ爲メ西班牙人  
 民ノ怨ヲ來シタルニ基キタルコトハ那破翁帝自ラ嘆シタルヲ見ルモ明カナリ  
 隨テ徵發ヲ嚴酷ニスルハ却テ占領軍ノ不利益ト爲ルヲ以テ軍隊モ之ヲ欲セス  
 又國際法上之ヲ許サスシテ徵發ヲ以テ軍隊需要品ノ主タル湖源ト爲ス能ハス  
 單ニ輻重ノ補助トシテ其賦課ヲ爲シ得ヘキニ過キス千八百十三年英佛戰爭千八  
 百四十六年米墨戰爭千八百五十六年タリミヤ戰爭ニ於テ英佛米ノ軍隊ハ賠償  
 セシシテ徵發ヲ行フヲ自ラ禁シ日清戰爭ニ於テハ我軍隊ノ需要品ヲ徵發スル  
 ニ當リテハ悉ク現金ヲ以テ辨償シ證券ヲ與ヘ代價ヲ後日ニ支拂フコトト爲  
 タルハ單ニ一ノ場合ニ過キス加之其代價モ成ルヘク時價ニ據リタルモノニ  
 シテ無報酬ノ徵發ヲ爲シタルコトナシ  
 占領地ノ不動産ハ古有者ハ第三者ニ賣却スル能ハス若シ賣却ヲ爲ストキハ購  
 受ケタル者ハ原所有者ヨリ正當ニ取戻サルルノ危險ヲ附帶シテ之ヲ取得スヘ  
 キノミナラス第三者ニシテ占領者ニ金錢物品ヲ之カ爲メ與フルハ中立ヲ破リ  
 タルモノトス然レトモ公有ノ建築物又ハ土地ハ軍隊ハ之ヲ使用シ若クハ貸與

シテ其利益ヲ取得シ得ヘク私有ノ不動産モ軍隊ノ必要ニ由リテハ徵發ニ依リ  
 使用又ハ破壊シ得ヘシ但シ軍事上ニ必要ナキ破壊ハ國有財産ニ對シテモ行フ  
 ヘキモノニ非ス千八百七十年普國政府ハ佛領ミユトス及ビシホル地方ノ官  
 有山林ノ木材一萬五千本ヲ戰爭中ニ賣却シタルニ戰爭後佛國政府ハ其土地ヨ  
 リ未タ取除カサル木材ヲ差押ヘ買主ハ之ヲ獨逸政府ニ訴ヘタリシカ同政府モ  
 山林ヲ荒蕪セシムヘキ木材ノ賣却ハ占領者ノ權利ヲ超過シタルヲ知り佛國法  
 廷ノ裁判ニ一任スルコトトシ法廷ハ山林荒蕪ノ故ヲ以テ獨逸國ノ賣却ヲ無效  
 トセリ  
 總ニ法意スヘキハ私有財産中ニ付キ兵器彈藥等戰爭ノ用ニ供スヘキ物品ハ戰  
 利品トシテ占領者ノ取得シ得ヘキハ既ニ説明セリ然ルニ平和會議ノ陸戰例外  
 第五十三條第二項ノ規定ヲ見ルニ鐵道材料陸地電信機電話機海上法ノ規定  
 ニ在ル蒸氣船其他ノ船舶ハ武庫其他一切ノ軍需品ト共ニ會社若クハ商人ニ屬  
 スルモノタリトモ均ク軍用ニ供スヘキ性質ヲ有スルモノニ屬ス然レトモ平  
 和回復ノ際ニハ之ヲ返還シテ其損害ヲ賠償スヘキモノトセリ此規定中鐵道電

信等戰爭ノ行爲上之ヲ收用スル必要アル物ハ徵發シ得ヘキハ疑ナク汽船其他ノ船舶ハ海上ニ於テ捕獲シ得ヘキハ海上捕獲ノ章ニ詳説スヘキモ武器器倉庫其他兵器彈藥ハ官有私有ヲ問ハス現行國際公法上之ヲ沒收シ得ヘキモ拘ラス此規定ニ依レハ單ニ徵發ノ權アルニ止マリ平和克復ノ際必ス之ヲ返還シ其損害ヲ箇人ニ對シテ賠償スヘキモノト爲セルハ是レ亦現行國際法上ノ規定ト看做スヘキニ非スシテ同規定ノ一般ニ實行サルルニ至ラザレハ此法ノ法則ト爲ス能ハス又占領軍ハ占領地ニ於ケル中立國若クハ其人民ノ物品ヲ必要ニ由リテハ收用シ得ヘキモノニシテ普佛戰爭中獨逸軍隊ハアルテス別ニ於テ端西國ニ屬スル六百乃至七百輛ノ列車ヲ軍隊ノ使用ニ收用セルカ如ク斯ル場合ニ於テハ其損害ヲ中立國又ハ其所有者タル人民ニ賠償スヘキコトハ勿論ニシテ陸戰例規第五十四條ニ於テモ中立國ヨリ來ル鐵道材料ハ該國ノ國有タルト會社若クハ箇人ノ所有タルトヲ問ハス成ルヘク速ニ返送スヘシト規定セリ

### 第三款 課金

課金ハ占領者カ占領地ノ政務ヲ施スノ費用又ハ軍隊ノ需用ヲ補助セシメシカ爲メ占領地ノ人民ヨリ金錢ヲ徵收シテ之ニ充ツルモノニシテ占領地人民ノ軍隊ニ對シテ現行アリタルニ際シテ其罰トシテ金錢ヲ出サシムルヲ刑罰課金ト稱フ總テ徵發及ヒ課金ノ名稱ハ學者中ニモ混同セラレル所ニシテ徵發ノ名義中ニ課金ヲモ包含セシメテ論ズル者ナキニ非ス口清戰爭ニ際シ我國モ課金ヲ徵發ノ一部トシ第二軍徵發心得書中課金ヲ以テ現金徵發ト名ケタリ而シテ課金ハ之ヲ人民ノ金錢ニ對シテ掠奪ヲ爲スノ手段トスルコト能ハサルニ由リ其賦課ヲ爲シ得ヘキ程度ハ軍隊ノ必要ト土地ノ實力ニ應スヘキモノナレトモブルツセタル宣言第四十一條ニ於テハ大體ノ原則トシテ其程度ヲ列記シ(第一)占領地ニ於ケル租稅其他租稅ニ代ルヘキ課金第二軍隊需要ノ爲メ人民ヨリ徵收スヘキ物品ニ代ルヘキ課金第三刑罰課金ト爲セリ

右第一種ノ課金ニ關シテハ既ニ述ヘタルカ如ク占領者ハ其地ノ租稅ヲ取得スルノ權利アルニ由リ其諸稅ヲ賦課セントスルニ當リ從前ヨリ行ハレタル取立ノ方法等ヲ詳カニモテサレ場合又ハ在來ノ稅目ヲ實行スル能ハサル場合ニ於テ



ハ之ニ代ルヘキ金銭ヲ課金トシテ徵收シ得ヘキハ論ナク然レトモ第二種ノ課金ニ付テハ「ブルヂセル」宣言ノ規定タル軍隊ノ没ニ適當ノ課金ヲ行フコトヲ豫防シ其賦課シ得ヘキ最高額ヲ以テ軍隊ノ需要品ヘキ物品ノ代價ニ止メシトシタルニ外ナラス是レ理論上ニ於テハ非難スヘキ所ナシト雖モ實際ニ於テハ果シテ此制限ノ實用アルヤ否ヤハ疑ヲ免レス何トナレハ現今ノ如ク諸國軍隊ノ兵員非常ニ數多ト爲リタル結果トシテ其軍隊ノ需要品ニ代ルヘキ金額如何ヲ考フルトキハ固ヨリ其需要品ノ多量ナルカ爲メ之ニ代フルノ代價ヲ以テ課金ノ金額ヲ制限シ能ハサルヲ以テナリ平和會議陸戰例規第四十九條ニ於テハ占領者若シ租税ノ外他ノ取立金ヲ命スルトモ軍隊又ハ占領地行政上ノ需要ニ應スルノ外ニ出テハカラスト規定セリ

終ニ第三種ノ刑罰課金ト云フハ占領者ニ對シテ地方人民ノ犯行アリタル場合ニ於テ其犯罪者ヲ刑罰スルハ勿論其地方人民ノ犯行ニ關與シ又ハ其疑アルカ若クハ犯行ニ付キ犯罪者ノ發見スルコト能ハサルニ際シ將來斯ル犯行ヲ爲ス者アルヲ豫防スル爲メ其地方全體ニ課金スルモノニシテ總テ占領者ハ軍隊ノ安

全及ヒ成效ニ必要ナル以上ハ占領地ニ對シ無制限ノ權力ヲ有スルヲ以テ普通其地人民ヲシテ本國ノ交通ヲ禁シ本國ノ軍隊ニ加ハリ又ハ之ニ通信シ或ハ其嚮導ト爲ルカ如キ占領者ニ妨害ヲ爲ス者ヲ罰スルノミナラス占領ノ都市町村ニ於テ占領者ニ對スル犯行アルトキ其人民ノ之ニ與リタル者ト推定スルトキハ連帶責任トシテ刑罰課金ヲ命シ又ハ其地方ノ民家ヲ燒却スルコトナキニ非ス千八百七十一年獨逸國占領ノ佛國領土中人民ノフランチノイ橋ヲ破壞シタルトキ「ローレン」州ノ大守ハ同州全體ニ一千萬フランノ刑罰課金ヲ命シ「フランチ」ノイ村落ヲ燒却セリ加之千八百七十年八月普國政府ハ占領地一般ニ對シテ布告ヲ以テ占領者ニ對スル犯罪者ニ屬スル地方又ハ犯罪行為地ニ向テ一犯罪者毎ニ一箇年ノ地租ト同一ノ課金ヲ命スルコトヲ規定シ那破續戰爭中ニ於テ伊國及ヒ西班牙ニ於テ佛軍ハ嚴酷ナル刑罰課金ヲ犯行者アル毎ニ其地方ニ被ラシメタリ斯ク犯罪人所屬地又ハ犯罪行為地人民ニ刑罰課金ヲ爲スハ不法ニ非スト雖モ時トシテ其課金ハ嚴酷ニ失シ其犯行ヨリ生スヘキ危險ニ比スヘカラサルモノアリ或適當ノ課金ハ占領者ノ其地方ヲ支配スル必要上止ムヘカ

ヲタルニ非ナレハ賦課スヘキモノニ非ス隨テ學理上ニ於テハ成ルヘク刑罰課金ヲ漫ニ課スルヲ許サズシテ陸戰例規第五十條ニ於テ人民ニ對シ其連帶責任ヲ關係ナキ僑人ノ行爲ノ爲メ金錢其他ヲ以テスル連帶ノ刑罰ヲ加テヘカラスニ規定セリ

課金ノ賦課ハ「アルツセル」宣言ニ於テ軍隊司令長官又ハ占領地ニ於ケル民政官衙ノ命令ニ基キ其責任ニ於テノミ爲シ得ヘキコトトシ陸戰例規第五十一條ニ於テハ凡ソ取立金ハ司令長官ノ責任ノ下ニ命令書ヲ以テスルノ外之ヲ徵收スルコトヲ得ストシ徵收ヨリモ極メテ其責任ヲ重大ナラシメタリ而シテ徵收ノ方法モ成ルヘク在來ノ普通課稅ノ方法ニ依ルヘク行政廳ノ存スルトキハ其徵收ニ盡力セシムヘキモノニシテ陸戰例規第四十八條ニ於テ占領者若シ占領地内ニ於テ從來國家ノ爲メニ設ケタル租稅賦課金及ヒ通行稅ヲ徵收スルトキハ成ルヘク現行ノ賦課規則ニ依リテ之ヲ徵收シ且ツ其收入ヲ以テ其占領地ノ行政費ニ充ツルコト一ニ正當政府力之カ爲メニ費セシ所ト同様ノ程度ニ於テスルノ義務アルモノトストセリ然レトモ此行政ニ充ツル費用ノ割合ニ付テハ來

タ之ヲ國家ノ義務トスル備ハサレトモ徵收ノ方法ハ在來ノ規則ニ依ルヘク又刑罰課金ヲ除キ其他ノ課金ハ必ス之ニ對スル領收證ヲ交付スヘキモノニシテ其理由ハ徵發ト同一ナリ

占領地ニ於ケル人民ノ犯行ヲ豫防スル爲メ若クハ課金徵發ノ調達ヲ催ス爲メ其地方ノ名望家ヲ人質ト爲シタル例ナキニ非ス然レトモ如何ナル場合ニモ人質ハ之ヲ虐待スル能ハスシテ少クモ俘虜ト同一ノ待遇ヲ之ニ與フヘク隨テ今日ニ於テハ其人質ハ昔時ノ如ク之ヲ取り置クモ其目的ヲ達スル上ニ付キ大ナル效力ナク殊ニ地方ノ反抗ヲ豫防スル上ニ於テハ最も效力ノ薄弱ナルモノトス此理由ニ據リ自ラ其人質モ地方人民ノ反抗ヲ企ツルニ付キ必要ナル人ニシテ叛亂ヲ爲サントスルモ其人ナキトキハ首領ヲ失フ如キ場合ニ始メテ效力ヲ覓ルニ過キス千八百七十年獨逸政府ハ占領地人民ノ屢次車ヲ攻撃シタルニ由リ沿道ノ町村ニ於ケル名望家文武官又ハ會社ノ役員等ヲ人質ト爲シ列車中ニ置キテ以テ其攻撃ヲ豫防シタルハ好結果ヲ奏シタルモ人質ヲ列車中ニ禁錮幽閉シタルノ故ヲ以テ一般ノ非難スル所ナリ

### 第五章 海戰ニ於ケル敵國人民ニ對スル權利

#### 第一節 戰鬪船舶及ヒ船員

海上ノ戰爭ニ關シ戰鬪者トハ軍艦ノ艦員其他國家ノ海軍ニ屬スル人員ヲ謂フ然レトモ總テ戰鬪者トシテハ海陸戰爭ノ區別ナク陸上戰鬪者ト雖モ海上ノ戰爭ニ從事スルヲ得ヘク海軍ノ軍人モ陸上ノ戰爭ヲ爲シ得ヘキモノニシテ前ニ述ヘタル戰鬪者ノ資格ヲ有スル者ハ海上ニ於テ戰爭ヲ爲シ得ヘシ然レトモ陸上ニ於テハ民兵又ハ義勇兵團ト雖モ戰鬪者トシテ戰鬪ヲ爲シ得ヘキモ海上ニ於テハ私有ノ船舶ヲ以テ人民團體ノ戰爭ニ從事スルコトヲ許サズ必スヤ戰鬪艦砲艦又ハ水雷艇ヲ始メ海軍ヲ組織スル官船ヲ以テ之ヲ行ハサルヘカラス而シテ陸戰ニ於テハ私有財産ハ不可侵ヲ以テ原則トスレトモ海上ニ於テハ中立國ノ領海以外ニ於テハ其公海タルト自國又ハ敵國ノ領海トヲ問ハス軍艦其他ノ官船ハ其海上ニ於テ戰鬪ヲ爲シ得ヘキノミナラス敵國人民ノ私有ニ係ル船舶及ヒ積荷ヲ捕獲シ得ヘク敵國戰鬪者ヲ攻撃スルノ外其國ノ商業ヲ防害

シ其財産ハ官有ト私有ノ別ナク沒收シ得ヘシ然レトモ其國ノ船舶自國領海ニ在リテ戰鬪中海上ニ於テ戰鬪ヲ爲シ得ル船舶ト否トヲ區別スルハ近世ノコトニシテ歐洲諸國ニ於テ海軍ヲ設備ナキ時代ニ在リテハ敵國ヲ攻撃スルニ官船ト私船トヲ區別シタルコトナク中世ニ於テハ列國中海軍ヲ有セザル者多ク偶之ヲ有スルモ戰鬪力薄弱ナリシヲ以テ戰鬪ニ於テ商船ヲ使用シ軍人以外ノ人員モ其船舶ヲ武裝シ戰鬪ニ從事シ若クハ海上捕獲ヲ行ヒタルモノニシテ畢竟スルニ近世ニ至リ戰爭ノ方法ノ全ク一變シ戰鬪ニ用フヘキ船舶ト商船トハ學術ノ進歩ニ由リ戰爭ノ方法ノ全ク一變シ戰鬪ニ用フヘキ船舶ト商船トハ其構造ニ於テ大ナル差異アルニ至リタルト同時ニ千八百五十六年巴里宣言ニ由リ私船ヲ以テ拿捕ノ用ニ供スル能ハスト爲シタルニ基因スルモノト今軍艦其他ノ官船以外ニシテ戰爭ニ從事シタル者並ニ今尚ホ從事シ得ヘキ者ヲ左ニ略述スヘシ

#### 第一款 拿捕用ノ私船

戰爭中ニ於テ交戰國又ハ第三國ノ人民ニシテ私有船舶ヲ被裝シ主トシテ敵國ノ商船ヲ拿捕シ其船舶及ヒ積荷ヲ取得スルコト歐洲ノ昔時ニ於テ一般ニ行ハレ第十五世紀以來ハ斯ル私船ハ交戰國一方ノ政府ヨリシテ認可狀ヲ受クヘキモノトシ之ヲ有セザル者ニシテ斯ク海上ノ捕獲ニ從事スルハ海賊ノ行爲ト看做テラタルニ拘ラス其認可狀ヲ得テ敵國ノ商業ヲ防害セ海上ノ拿捕ヲ行フトキハ捕獲審檢所ノ裁判ヲ經テ船舶及ヒ積荷ヲ沒收シ其賣却金額ノ全部又ハ殆ト全體ヲ拿捕者ノ分配ヲ受クルコトトセリ斯ク私船ヲ以テ拿捕ヲ許シ來リタルノ理由ハ(第一)戰爭中航海者ノ其業ヲ失ヒ居ル者ヲ利用シテ一ハ自國ノ利益ト爲リ一ハ航海者ニ生活ノ途ヲ得セムルト(第二)此方法ニ依リ少日時ニシテ且ツ少費用ヲ以テ自國ノ海軍戰鬪力ヲ増加スルトニ在リ然レトモ私船ヲ以テ拿捕ヲ爲サシムルノ弊害モ亦大ナルカ故ニ交戰國ハ認可狀ヲ出スニ當リテ固ヨリ其私船ニ於テ戰時法則ニ遵據シ其拿捕物ヲ審檢所ノ裁判ニ提出セムル爲メ保證金又ハ證書ヲ入レシメ更ニ又其船舶ニシテ調令ニ違反シ其他不正ノ行爲アルトキハ認可ヲ取消スノミナラス時時自國軍艦ヲ

シテ之ニ臨檢セシメ其監督ヲ怠ラナリシニ拘ラス(第一)元來此等船舶ノ目的トスル所ハ掠奪ニ在ルヲ以テ其船舶ニ對シテ國家ノ名譽又ハ其職務ニ對スル尊重ノ念慮ヲ責ムルコト能ハス隨テ戰爭後ニ於テモ之カ爲メニ盜賊ノ心情ヲ航海業者社會ニ注入スルノ媒介ト爲リ一般ノ通商航海ヲ重スル今日ニ於テハ甚シキ害毒ヲ自國人民ニ遺スヲ免レヌ(第二)私船ニシテ拿捕ヲ行フ者ノ行爲ニ付テハ軍艦ヲ以テ拿捕ヲ行フ者ヨリモ之ニ對シテ一層嚴重ニ監督スルノ必要アルニ拘ラス事實上其監督ハ軍艦ヲ監督スルヨリモ固ヨリ寛慢ナルヲ免レヌ又其不法行爲ニ對スル制裁モ認可狀ヲ取消スカ又ハ保證金ヲ沒收スルカ若クハ保證ノ證書ニ依リテ罰金ヲ出サシムルカノ如キ悉ク間接ニ屬スルヲ以テ斯ル行爲ヲ豫防スルノ困難アリ加之一般ニ兇暴ナル航海業者ヲ監督スルハ海軍ニ訓練シタル水兵ヲ監督スル如キ容易ノモノニ非ス(第三)中立國船舶ニ對シテ戰時ノ權利ヲ行フニハ最モ慎重ヲ要スルニ拘ラス之ヲ私船ニ豎ムコト難ク面シテ其權利ノ濫用ハ一般ノ通商航海上大ナル弊害ヲ生シ諸國ノ利害ニ關係ヲ及ホスモノタリ以上ノ理由ニ據リ中世以來交戰國ハ自國人ト第三國人トヲ觀

ス拿捕ノ認可狀ヲ交付シ其捕獲ニ係ル財産ノ全部若クハ殆ト其全部ヲ拿捕  
者ニ與ヘ私船ノ拿捕ハ航海業者ノ一種ノ商業ノ如キ姿ト爲リタルニ拘ラス第  
十八世紀ニ於テハ列國ハ其弊害ヲ防クノ必要ヨリシテ自國人民ノ交戰國ヨリ  
認可狀ヲ受クルコトヲ禁スルニ至リ千八百四十五年米墨戰爭ニ於テ墨國政府ハ  
第三國ノ船ニ對シ其請求ニ依リテ拿捕ノ認可狀ヲ交付スヘシト宣言シ千八百  
六十一年米國內亂ニ於テ南軍政府ハ同一ノ宣言ヲ爲シタレトモ第三國人民ノ  
之ニ應シタル者ナク國際公法上中立國人民ノ私船ヲ以テ拿捕ニ從事スルハ決  
シテ許ササル所ト爲レリ  
私船ヲ以テ敵國船舶及ヒ積荷ノ拿捕ヲ許ササルハ管ニ中立シタル第三國人民  
ニ對シテノミニ非ス今今日ニ於テハ交戰國ノ人民ト雖モ之ヲ行フヘカラザ  
ルニ至レリ此法則ヲ生シタルハ千八百五十四年アリミヤ戰爭ニ於テ英佛兩國  
ハ露國ニ對シ武裝ノ官船ニ限リ戰爭ニ用フルコトヲ通告シ露國モ同シク私船  
ヲ以テ拿捕ヲ行ハサルニトモ千八百五十六年四月十六日英佛普奧露セルラ  
「ヤ反ヒ土耳其ノ七國ハ巴里宣言ヲ約定シ同宣言ニ於テ列國國際上一定ノ法

則トシテ左ノ四箇條ヲ規定ヲ爲セリ  
第一 私船ヲ拿捕ノ用ニ供スルコトヲ爾今廢止スルコト  
第二 局外中立國ノ旗章ヲ掲グル船舶ニ搭載スル敵國ノ貨物ハ戰時禁制品ヲ  
除ク外之ヲ拿捕スヘカラサルコト  
第三 敵國ノ旗章ヲ掲グル船舶ニ搭載セル局外中立國ノ貨物ハ戰時禁制品ヲ  
除ク外之ヲ拿捕スヘカラサルコト  
第四 港口ノ封鎖ヲ有效ナラントスルニハ實力ヲ用ヒサルヘカラス即チ敵國  
ノ海岸ニ接近スルヲ實際妨クニ足ルヘキ十分ノ兵備ヲ要スルコト  
此宣言ニハ方今北米合衆國西班牙墨西哥「メキシコ」及ヒ支那等敵國ヲ除ク  
外列國悉ク加盟スルニ至レリ而シテ墨西哥及ヒ西班牙ハ終ノ三箇條ニ同意セ  
ルモ第一條ノ故ヲ以テ加盟ヲ拒ミ米國ハ第二條以下三箇條ニハ第一條ヲ別ニ  
シテ自ラ適用スルコトト爲シ第一條ニ對シテハ公海ニ於テ交戰國人民ノ私  
財産ハ戰時禁制品ヲ除ク外互ニ敵國軍艦ノ捕獲ヲ免ルヘキ條件ヲ以テ巴里宣  
言ヲ承認スヘキコトヲ申込タリシカ諸國ハ之ニ同意セザリシヲ以テ米國ハ

猶ホ巴里宣言ニ加盟セザル所以ナリ隨テ米國ノ意思ハ決シテ私船ヲ以テ拿捕  
 ヲ行フヲ可トスルニ非スシテ同國ハ諸國ニ準先シテ之ヲ廢止スヘキ條約ヲ千  
 七百八十五年普國ト締結シ其後モンロー大統領ノ如キモ熱心ニ海上ニ於テ私  
 有ノ敵船及ヒ敵物ヲ拿捕スヘカラザルコトヲ主張シタルニ拘ラス同國ノ政略  
 上平時ニ於テ海軍ヲ有セザリシヲ以テ戰爭ニ於テハ商船ヲ使用シテ戰爭行為  
 ヲ爲サシムルノ必要アリ隨テ若シ諸國ノ戰爭ニ於テ私船ヲ用フルヲ廢セント  
 セハ米國ハ一步ヲ進メテ互ニ商船及ヒ財產ノ私人ノ所有ニ係ルモノヲ捕殺セ  
 サルコトト爲スニ非ザレハ單ニ私船ヲ拿捕ノ用ニ供セザルノミニテハ米國ハ  
 戰爭ニ際シ却テ不利益ノ地位ニ立ツニ至ルヘキニ由リ獨リ私船ヲ拿捕ノ用ニ  
 供スルヲ禁スルノミニハ贊同スル能ハスト云フニ在リ

然レトモ巴里宣言ノ規定ハ其他諸國間ニ實行サレタムヲ以テ方今ニ於テハ  
 之ニ加盟セザル國ニ於テモ事實上戰爭ニ際シ私船ヲ以テ拿捕ヲ行フコト能ハズ  
 ルニ至リ千八百九十八年亞米利加並ニ西班牙ハ私船ヲ拿捕ノ  
 用ニ供セザルコトヲ宣言シタル如ク方今列國ハ悉ク私船ヲ拿捕ノ用ニ供スル

ナキニ至リ又實際ニ於テ巴里宣言ニ加盟セザル國ハ條約上ノ義務ナシト雖モ  
 私船ヲ拿捕ニ用ヒ中立國船舶ニ對シテ臨檢搜查ヲ爲シ或ハ敵國船舶ヲ拿捕ス  
 ルトキハ其積荷ニ付テハ中立國ニ關係ヲ有スルヲ以テ私船ヲ用ヒテ斯ル拿捕  
 ヲ行フトキハ諸國ノ感情ヲ害シ國際問題ヲ惹起スニ至ルヘク巴里宣言ニ加盟  
 スル多數ノ中立國ノ船舶及ヒ積荷ニ對シテ私船ヲ以テ拿捕ノ權利ヲ實行スル  
 能ハサルノミナラス敵國商船ニ對シテ之ヲ實行セントスルニ付テモ少クモ其  
 私船ハ巡洋艦ト均シキモノニ非ザレハ近世船舶ノ速力其他構造ノ進歩シタ  
 ル爲メ其拿捕ノ目的ヲ達スル能ハス然ルニ巡洋艦ト均シキ船舶ヲ造ルハ其費  
 用ノ大ニシテ且ツ沈没若クハ敵國ノ攻撃ヲ受クヘキ危險アルニ由リ斯ル船舶  
 ノ製造ハ到底私人ノ企テ及フ所ニ非サルヲ以テ巴里宣言ニ加盟セザル國ニ於  
 テモ自ラ私船ヲ以テ拿捕ヲ行フハ事實上爲スヘカラサルニ至リタルモノ  
 トス

### 第二款 義勇艦隊

國際公法論時 交戰國間ノ法則 海戰ニ於ケル敵國人民ニ對スル權利 一八三

義勇艦隊トハ千八百七十年普佛戰爭ニ於テ始メテ生シタルモノニシテ同年八月普國ハ海軍微弱ナルノ故ヲ以テ商船所有者及ヒ航海業者ノ希望ニ應シ商船ヲ僱用シ之ヲ海軍組織ニ編入セサルニ拘ラス獨逸海軍ノ國旗ヲ掲ケシメ其乘組員ヲ海軍ノ訓練及ヒ士官ノ指揮ノ下ニ置キ戰爭中ニ限リ乘組員ハ總テ給料ヲ受ケ軍服ヲ著シ艦船所有者ハ其賃借料トシテ政府ヨリ一定ノ報酬ヲ受ケ以テ其艦船ニ於テ敵艦及ヒ積荷ヲ捕獲スルトキハ政府ヨリ一定ノ賞與金ヲ受ケシムルノ制ニシテ佛國政府ハ之ヲ私艦ノ拿捕ヲ爲スモノト稱シ巴里宣言ノ破約ト論シ遂ニ普佛兩國ハ此萬國ニ付キ英國政府ノ意見ヲ問ヒタルニ英國政府ヲ意見ニテハ獨逸ノ義勇艦隊ハ私艦ヲ拿捕ノ用ニ供スルモノトハ大ナル差異アルモノト決定シ巴里宣言違反ニ非スト判定セリ此點ニ付テハ學者ノ議論數ルル所ニシテ「カルボー」及ヒ「ホール」等ハ之ヲ非難シ私艦ノ拿捕ト異ナルコトナシト論シ「ブレンチネリー」「トッキス」「グフクン」等ハ義勇艦隊ニ付テハ非難スル所ナシトセリ

今此議論ニ付キ孰レヲ是トスヘキヤハ姑ク措キ方今列國ノ義勇艦隊ニ反對ヲ

唱ヘタル者ナキニ由リ諸國ハ猶ホ陸戰ニ於テ民兵義勇兵ヲ以テ戰闘力ヲ補充スルト同シク海上ニ於テモ爭フテ義勇艦隊ヲ使用スルノ利益ヲ認メ千八百七十八年英露兩國ノ戰爭ヲ惹起サントシタルニ當リ露國人民ハ義捐金ヲ以テ船隻ヲ買入レ義勇艦隊ヲ組織シ戰爭ニ至ラハ之ヲ海軍士官ノ指揮ノ下ニ置キテ運動セントシタリシカ其爭議モ伯林會議ニ因リ平和ニ終局スルニ至リ而シテ其當時組織シタル義勇艦隊ハ今日猶ホ存在シ其噸數其他艦體力ニ應シテ年年露國政府ノ補助金ヲ受ケ此等船隻ハ平時ニ於テハ商船旗ヲ掲タレトモ其船長及ヒ少クモ他ノ一人ノ船員タル士官ハ政府ヨリ任命シ船内ハ全ク海軍訓練ノ下ニ在リテ黑海及ヒ浦潮德港間ノ航海ヲ爲シ兵士及ヒ罪人ヲ政府ノ爲メ運搬スルノ傍ラ商業ヲ營ミ戰時ニ於テハ勿論政府ノ官船トシテ軍艦ノ用ヲモ爲スモノナルニ由リ其商船旗ヲ掲クルハ真正ノ行爲ト看ルヘカラスシテ義勇艦隊ハ露國海軍ノ一部ト看ルヘキカ如シ然ルニ土耳其國政府ハ露國ノ勢力ニ壓セタレ之ヲ軍艦ト同一視スル能ハスシテ「ボスホルス」「ダグダグ」等ノ海峽ヲ露國義勇艦隊ハ自由ニ通航シ他ノ歐洲強國モ同海峽ノ開始通行ヲ禁止ニ付テハ保障

ヲ爲シ居ルニ拘ラス露國ノ歡心ヲ害セサルヲ利益トシテカ取テ之ニ敵障ヲ唱  
 フル者ナシ

方今列國ハ豫メ戰爭ニ於テ軍艦ノ補充トシテ商船ヲ義勇艦隊ト爲シテ使用セ  
 シトスルハ嘗ニ露國ニ止マラス英國ハ千八百八十七年以來太平洋及ヒ太平洋  
 ヲ航海スル「キユーナー」及ヒ「ホワイト」並ニ「加奈太線」等ノ私立郵船會社  
 ト特約ヲ結ビ年年一定ノ補助金ヲ與ヘテ政府ノ通知アルヤ否ヤ何時ニテモ迅  
 速ナル船船ヲ政府ニ賣却若クハ一定ノ貸金ヲ以テ貸與スヘキコトヲ定メ其船  
 舶製造ニ付テモ戰爭ニ當リ武裝ノ必要上豫メ英國海軍省ノ指揮ヲ受ケテ構造  
 スルコトトシ又船員ノ半數ハ海軍豫備ノ兵士ヲ以テ之ニ充ツルコトト爲シ米  
 國ハ千八百九十二年同國商船會社ト同一ナル特約ヲ結ビ佛國及ヒ獨逸國モ亦  
 各自國ノ郵船會社ニ對シ斯ル規約ヲ爲シ海軍士官ヲ以テ船長トシ平時ハ商業  
 ノミニ從事スレトモ戰爭ヲ開始スルトキハ其會社ノ船船ノ幾部ハ海軍ニ編入  
 セラルヘキモノト爲シ居レリ

## 第二節 海上戰鬪者ノ待遇

海戰ニ於ケル戰鬪者ト非戰鬪者トノ身體ニ關スル權利義務ハ陸戰ニ於ケルト  
 同シク俘虜待遇モ亦同一ナリ而シテ其俘虜ト爲スヘキ者ハ唯リ戰鬪者ニ止マ  
 ラスシテ敵國商船ノ船員モ亦俘虜ト爲シ得ヘキハ既ニ述ヘタルカ如ク又病者  
 負傷者ノ待遇ニ關シテハ一般ノ原則ニ依ルモ殊ニ海上戰鬪者ノ救護ニ付テハ  
 千八百六十八年「ゼネバ條約」附屬條約第六條以下ニ於テ其規定ヲ設ケ同條約ハ  
 列國ノ批准ナキニ拘ラス既ニ普佛戰爭ニ於テ兩國ノ假ニ實行スル所ト爲リ又  
 學說ニ於テモ非難ナキ所ナルニ由リ自ラ國家行爲ノ標準ト爲スヘク又其規定  
 ニ遵據シテ昨年「ヘイ平和會議」ニ於テ千八百六十四年八月二十二日「ゼネバ條  
 約」ノ原則ヲ海戰ニ應用スル條約ノ締結ヲ見ルニ至レリ今此等規定ノ概要モシ  
 テ國家行爲ノ規則トモ看ルヘキモノヲ述フレハ(第一)負傷者病者及ヒ難船者ヲ  
 救護スル唯一ノ目的ヲ以テ政府ノ製造又ハ設備シタル軍用病院(第二)病人又  
 「公認セラレタル救恤協會」要用ヲ以テ全部若クハ一部ヲ艦裝シタル病院船



ニシテ其所属交戰國ヨリ之ニ公ノ任務ヲ命シ當該官廳ニ於テ監督ノ證明書ヲ  
 携帶スル者第三中立國ノ一箇人又ハ公認セラレタル協會ノ費用ヲ以テ全部若  
 クハ一部分ヲ負擔シタル病院船ニシテ其所属中立國ヨリ之ニ公ノ任務ヲ命シ  
 タル者ハ戰開始ノ際若クハ交戰中其使用ニ先テ又ハ交戰中ニテ使用スル  
 ニ先テ其船名ヲ敵國ニ通告セラレタル者ハ均シク捕獲セラレサルノミナラ  
 ス交戰國モ之ヲ尊重セザルヘキモノトシ斯ル船舶ハ何レノ國民ヲ問ハス交戰  
 國ノ病者、負傷者及ヒ難船者ヲ救護扶助スヘキモノトタリ又中立國ノ商船遊船若  
 クハ短艇ニシテ交戰國ノ負傷者病者又ハ難船者ヲ搭載シ又ハ收容スル者ハ其  
 輸送ノ事實ノ爲メニ捕獲セララルコトナシ然レトモ中立違犯ノ行爲ナルトキ  
 ハ捕獲セララルコト勿論ナリ而シテ甲交戰國ノ難船者負傷者若クハ病者ニシ  
 テ乙交戰國ノ權内ニ陥ラタル者ハ俘虜タルヘシ事情ニ依リテ之ヲ拘留シ或ハ  
 自國ノ一港又ハ中立國ノ一港ニ送還シ或ハ敵國ノ一港ニ送還スルトモ乙國  
 ノ自由タルヘク本國ニ送還ラタル者ハ交戰中再ヒ服役スルヲ得ス總テ捕獲セ  
 ラレタル船舶内ニ在リテ教法醫療及ヒ看護ニ従事スル人員ハ侵スヘカラザル

得サルヘシ  
 茲ニ注意スヘキコトアリ何カ安寧ナリヤノ問題はナリ安寧ヲ分析シテ之カ要  
 素ヲ述フルコトハ頗ル難事ナリ廣ク安寧秩序ト云フトキハ社會ノ法則ニ外ナ  
 ラス蓋シ社會ハ其生存ヲ全クスル爲メニ一定ノ法則ニ依リテ團結シ其法則ノ  
 行ハルコトカ即チ社會生存ノ要件ナリ而シテ社會ノ法則ノ秩序ハ即チ權力  
 ノ關係之カ基礎ヲ成ス左レハ所謂安寧トハ國家カ自ら認メテ之ヲ定ムルノ外  
 之ヲ明定シ難キナリ  
 第五 警察ハ臣民ノ幸福ヲ維持スルコトヲ以テ目的トセザルヘカラス  
 我國警察權ノ目的ハ單ニ安寧秩序ヲ維持スルニ在ルノミナラス又積極的ニ臣  
 民ノ幸福ヲ増進スルモノニ對シ消極的ニ國家ハ之ヲ障害スル者アルトキハ當  
 然之ヲ除去セザルヘカラス是レ予ノ茲ニ警察ノ定義中ニ幸福ノ維持ヲ以テ目  
 的ノ一ニ數フル所以ナリ而シテ所謂幸福ヲ維持スルトハ安寧ヲ維持スルト其  
 主義ヲ異ニシ行政警察ニ付テ之ヲ言ヒタルモノニマテ森林警察嶺山警察ノ如  
 キ是ナリ或ハ安寧ヲ維持スルト云ハハ社會ノ生存秩序ニ關スルカ故ニ特ニ

福維持ト言フノ必要ナシト曰フ者ア、レモ安寧維持ト幸福維持トハ其意義異ニセルモノナルコトハ憲法第九條ヲ見ルモ明カナリ尙ホ此事ニ付テハ警察ノ分類ヲ論スルニ當リ之ヲ述アルコトアルベシニシテハ安寧維持ト幸福維持トハ第六 警察ハ人爲若クハ天然ノ危険ヲ除去スルヲ以テ目的トセサルヘカラス故ニ例ヘハ租税ノ忘納者ヲ強制シテ執行スルカ如キ若クハ徵兵ヲ免レントスル者ニ對シテ強テ之ニ應セシメントスルカ如キハ何レモ危険ノ防禦ニ關係ナキカ故ニ未ダ以テ警察ト稱スルヲ得サルナリ之ニ反シテ竊盜ヲ豫防スル爲メニ街路ニ點火セシムルハ警察ナリト稱スルヲ得ヘシ又茲ニ人爲ノ危険及ヒ天然ノ危険ト稱シタル所以ハ先ニ論スルカ如ク警察ハ又自然ノ危険ニ對シ關係スルコトアレハナリ蓋シ自由ノ制限ナルモノハ唯箇人ニ對シテ行ヒ得ヘキモノニシテ天然力ニ由リテ惹起スヘキ危険ヲ防クノ行爲ハ箇人ノ自由ヲ防クノ目的ニ於テ制限セラルル場合ニ在リテ存スルモノナリ然ラサレハ縱令危険ヲ防クコトアリト雖モ唯是レ助長事務ニ屬スヘキモノナリ(スラング也七頁) 穂積博士ハ警察ハ人爲ノ危害ニ對シテノミ人ノ行爲ヲ制限スルモノナリトセ

テ故ニ博士ノ說ニ從ヘハ家屋ノ構造ヲ警察ノ力ニテ堅牢ニ爲サシムルノ行爲ハ其行政行爲ヲ警察ト稱スルヲ得サルナリ其意蓋シ天然ノ災害其モノニ加フル働ナレハナリマックス、ザイデル氏、オット、マイエル氏ノ如キモ警察ノ本領ハ人爲ノ力ニ依リテ公ノ秩序ヲ害スル危害ニ對スル行政行爲ナリト稱セリ是レ余輩ノ主唱スル所ト一致セサル所ナリ

余ノ定義中ニ警察ハ公共ノ安寧ヲ維持シ以テ危険ヲ防禦スルヲ以テ目的トスド言ハスシテ危険ヲ防禦シ以テ安寧幸福ヲ維持スルヲ以テ目的トシタル所以ニ安寧維持モ危険豫防モ何レモ目的ナルモ危険豫防ハ安寧幸福維持ノ目的ニ對シテハ手段タルカ故ナリ

第七 警察ハ行政行爲ナリ  
抑モ行政ハ大權及ヒ法律ノ下ニ於テ國家ノ目的ヲ達スル國權ノ行動ナリ況テ國家社會ノ安寧秩序ヲ保持スル行爲ハ警察ニアラス警察ニ關スル事ヲ法律ニテ規定スルカ如キ之ヲ警察權ト云ヒ又ハ之ヲ警察法律ト云フハ法律ノ規定スル事物ノ性質カ安寧秩序ヲ保持スルヲ目的トスルコトニ在ルヲ謂フモノニシ

行政ノ側トシテ警察ナルモノトス此警察法律ヲ執行スルモノトシテ警察ナリトシテ  
スレハ法律ノ下ニ在ル警察の立法ニアラサル觀テ政府ノ側ヲ稱シテ此ニ行  
政行為ト稱スルナリ(政法博士行)

### 第七章 警察ノ分類

警察トハ直接ニ人身ノ自由ヲ制限シ以テ公私ノ秩序ヲ保維スルニ在リト云ヘ  
ル學說ヲ唱フル者或ハ警察分類ノ必要ナキ所以ヲ辯シテ曰ク警察ハ專ラ形式  
上ノ區別ニシテ警察事項ノ如何ナル目的ヲ以テ行ハルルヤヲ點ハ警察ノ法理  
ヲ説明スルニ於テ重要ナル區別ノ標準タラヌト然レトモ余輩ノ見ル所ニ據レ  
テ警察事項ノ如何ナル目的ヲ以テ行ハルルヤ換言スレハ事物ニ因リ警察ハ其  
原則ヲ異ニセサルヘカラサルヤハ警察トシテ最も必要ナル問題ニ屬シ警察法  
ヲ各論ニ於テ特種ノ警察事項ニ付キ論究スヘキハ即チ此點ニ於テ存ス左レ  
ニ警察ノ分類ハ決シテ忽略ニ付スヘカラサルモノナリ古來警察ノ分類ヲ論ス  
ル者學說區區ニシテ一定セズ今其重ナルモノヲ左ニ掲ケ之ヲ批論シ終ニ余ノ

採用スル分類ヲ論究セントス

#### 第一 保安警察及ヒ増福警察

此區別ハ古來ノ學說中ニ於テ存スルノミナラス又條文中ニ於テモ存ス之カ規  
定ニ付テハ則チ普國普通法典第二編第十七章第十條ニ於テ保安警察ノ何物タ  
ルヲ説テ曰ク

公共ノ靜謐安寧及ヒ秩序ヲ維持シ公衆及ヒ箇人ノ危險ヲ除去スルノ制度ヲ  
設クルハ即チ是レ警察ノ職務ナリ

又同法典第一編第十三章第十條ハ増福警察ノ何物タルヲ辯シテ曰ク

人民ノ能力ヲ發達セシメ之ヲ安全ニ進マシムル爲メ方法及ヒ手段ヲ施サン  
トシテ制度ヲ設クルハ國家主權者ノ爲スヘキ所ナリ

又千八百八年十二月二十六日ノ地方警察官廳ニ下セル命令及ヒ千八百十七年  
十月二十三日布達第七章中ニモ増福警察ノ事ヲ諭示セリ(スアインケル兵營)  
此區別ハ昔時ノ學說ニ起因セルモノニシテ余輩ノ立論中ニハ全ク存セサルモ  
ソナリ所謂増福警察トハ營造物其他増福ノ手段ヲ與フルモノニシテ全ク警察ナ

が意義中ニ屬スヘキ特質ノモノニアラス蓋シ警察ニハ必ス強制ナル要素ノ存  
 アルコトヲ要ス而シテ國家ハ個人ノ増福ノ爲メニ強フル權力ナシ是ニ於テ今  
 ヤ増福警察ニ代フルニ助長事務ナル名稱ヲ以テシ以テ強制ノ應用ナカラシム  
 ルニ至レリ抑モ増福警察ノ名稱アリシ時代ヲ考フルニ國家ハ安寧ノ爲メ個人  
 ヲ強制シ得ヘキハ勿論又増福ノ爲メニモ之ヲ強制シ得ヘシト認メタルモノナ  
 ルヘン何トナレハ此時代ニ於ケル凡テノ行政ハ皆強制權力トシテ存セシモノ  
 ナレハナリ(見スアチンゲル氏普通西行政法四頁一六三)

### 第二 強制警察及ヒ補助警察

公共ノ安寧ヲ維持スル爲メ強制力ニ依リ人民ニ一定ノ法規ヲ守ラシメントス  
 ルモノヲ稱シテ強制警察ト謂ヒ臣民ノ事業ヲ補助スルカ如キ行政ノ事務ヲ稱シ  
 テ補助警察ト謂フ例ヘハ救貧事業ノ如キ是ナリ然レトモ此區別モ亦誤謬タル  
 ヲ免レス何トナレハ所謂補助警察トハ助長事務ノ性質ニ屬スヘキモノニシテ  
 警察ノ本體ニアラサレハナリ(見レンネー氏普通西行政法三三七頁)

### 第三 司法警察及ヒ行政警察

既成ノ犯罪ヲ發見シ證據ヲ收集セ若クハ犯罪人ヲ捕フルコトハ公ノ秩序ヲ維  
 持スルニ於テ最も必要ナル所ナリ例ヘハ盜賊アルモ之ヲ捕ヘタルトキハ再ヒ  
 盜罪ヲ構成シ犯罪者ヲ増加スルノ危険アルカ如キ場合はナリ此等總テノ警察  
 行爲ヲ稱シテ茲ニ司法警察ト稱ス然レトモ法律ノ結果ニ由リ罪科ヲ處罰スル  
 ハ司法ノ事務ニ屬ス左レハ司法警察ハ唯之ニ對シテ司法行爲ヲ成ルヘク迅速  
 ニ爲サシムル爲メ之カ準備處分ヲ爲シ既成ノ罪科ニ對シテ刑事裁判ノ補助ヲ補  
 助スルノ義務アルノミ

行政警察トハ危険ヲ未發ニ豫防シ公衆ノ安寧ヲ保護スルモノヲ云フ

此ニ注意スヘキコトアリ行政警察ナル文字ハ種種ナル意義ニ用ヒラルト雖  
 モ此ニハ唯廣ク司法警察ニ對シテ用ヒタルモノナリ此區別ハ初メ佛蘭西ニ  
 起リタルモノニシテ同國共和第四年十一月三日千七百九十五年十月二十五日  
 ノ刑法ニ依レハ警察ヲ分テテ行政警察及ヒ司法警察ノ二ト爲セリ佛蘭共和第  
 四年刑法第十八條又其第十九條第二十條ニ於テ行政警察及ヒ司法警察ノ何物  
 タルコトヲ載セタリ又其後千八百八十八年十一月發布ノ佛蘭西刑事訴訟法第八條

ニハ重罪、輕罪及ヒ造警罪ヲ探索シテ其證據ヲ蒐集シ犯人ヲ管轄ノ刑事裁判所ニ引渡スコトヲ以テ司法警察ト定義セリニ依リテ行政警察ニ對シテは、我國ニ於テモ夙ニ此區別ニ倣ヒ明治八年太政官達第三十九號ノ行政警察規則ニ於テ次ノ規定アルヲ見ルルニ、

第一條 行政警察ノ趣意タル人民ノ凶害ヲ豫防シ安寧ヲ保全スルニ在リ

第四條 行政警察豫防ノ力及ハスシテ法律ニ背クモノアルトキハ其犯人ヲ逮捕スルハ司法警察ノ職務ナリ

而シテ此ニ所謂行政警察トハ先ニ言フ如ク司法警察ヲ除キタル總テノ警察ヲ稱スルモノナリ今其第一條ヲ見ルニ恰モ保安警察ノ事ヲ指スニ似タリ而シテ規則第三條ニ於テハ行政警察ノ職務ヲ規定スルニ當リ其第二項ニ於テ健康ヲ看護スルコトヲ示スカ如キハ明カニ衛生警察ノコトヲ指示シタルモノニシテ所謂行政警察ノコトヲモ合有スルモノニ似タリ

又我刑事訴訟法第四十八條ハ佛蘭西刑事訴訟法第九條以下ニ倣ヒ司法警察官吏ノ何物タルコトヲ示セリ

之ヲ濟治スルヲ得ヘク放縱ハ教育方法ニ依リテ多少之ヲ矯正スルヲ得ヘク貧困ノ生活放縱ノ慣習ニシテ幾分カ之ヲ矯正濟治スルヲ得ルニ至ラハ社會犯罪ノ行爲ハ著シク其件數ヲ減少スルニ至ルヘキナリ之ヲ既發ニ救フハ之ヲ未發ニ防クノ利ナルニ如カス爲政家有識者タル者須ク大ニ此ニ計營スル所ナクシハアルヘカラス救貧組織ハ最モ懇切周到ナルヲ要ス然レトモ之ヲ施行スルニ當リテハ最モ慎重ノ注意ヲ加フル所ナカルヘカラス救貧法其宜ヲ得ザルトキハ却テ犯罪者ヲ増殖ス宜シク場合トテ省察シ病者ハ直チニ之ヲ病院ニ送リ孤兒ハ猶豫ナク之ヲ育兒院ニ致シ遊蕩無賴ノ貧民ハ嚴正ナル規律ヲ以テ組織シタル救民授産場ニ之ヲ收養スル等要スルニ寛慢ニ流レス愛憐ニ失スルカ如キコトアルヘカラス其他或ハ生命財產等ノ保險法ヲ設ケ或ハ痲疾者老年者等ノ保護法ヲ行ヒ或ハ又家屋家財產營業資本等特別貸付ノ方法ヲ實施スルカ如キ何レモ皆救貧法ノ宜ヲ得タルモノト謂フヘシ而シテ若シ適當ナル救貧法ヲ施行スルニ至ラハ一面ニハ又彼ノ寺院若シハ一箇人カ淫ニ乞丐等ニ金銀ヲ惠與スルノ慣習ヲ除却スルニ至ラシムルコト必要ナリ畢竟今日ニ於テ到ル所乞丐淨

浪ノ徒ノ徘徊スルヲ見ル所以ノモノ職トシテ之ニ金銀ヲ惠與スル者アルニ由  
 ラスハアラス蓋與ハ則テ乞丐ヲ作リ乞丐ヲ作ルハ則テ犯罪者ヲ養成スルモ  
 ハト迄モ異ナラス  
 教育ト稱スルモノ必スシモ學校ニ於テスルモノノミニアラス家庭組合職工階  
 等ニ於テモ亦相當ノ教育ヲ施シ家長社長若クハ所長之可宰者ト爲リテ其子  
 職工ヲ薰陶シ之ニ德育ヲ授ケ智育ヲ與ヘ紀律秩序及ヒ清潔等要スルニ之ヲ  
 テ良民ノ生活ニ必要ナル慣習ニ馴致セシムル所アルヲ要ス克己制欲ノ念ヲ固  
 カラシメ知足安分ノ旨ヲ悟ラシムルコトハ宗教教化ノ力ニ如クモノナシ宗教  
 教育ノ事一日モ之ヲ忽諸ニ付スヘカラサルナリ

### 第三節 警察

警察制度ノ良否ハ犯罪ノ増減ニ關係アルコト最モ少カラス蓋シ犯罪者ノ多ク  
 不納ホ彼ノ相場師ノ如ク獨リ利得アルヲ知リテ損失アルヲ知ラス偶々之ヲ知  
 ル者アルモ結局比較的利スル所多クシテ失フ所少キヲ確認ス是レ即チ社會  
 覺ニ犯罪ノ絶滅ヲ見ル能ハサル所以ニシテ若シ彼ノ犯罪者ヲシテ一行一動犯  
 罪ノアル所忽チ責罰ノ必到ヲ免レサルヲ認識スルニ至ラシメハ犯罪ノ絶滅少  
 クモ之カ減少ヲ見ルニ至ルヘキコト期シテ待ツヘキナリ是レ即チ警察機關ノ  
 職任ニシテ其組織及ヒ運用ノ完整敏活ナルヲ得ルニ至リ始メテ大ニ犯罪防制  
 ノ效果ヲ見ルヲ得ヘシ

## 第九章 監獄構造法

### 第一節 總論

若シ夫レ監獄ノ目的ニシテ唯罪囚ヲ繫禁若クハ懲苦スルノ一事ニ在ラシメハ  
 之カ構造ノ如キモ敢テ深ク殆ト全ク其方法ヲ探求スルノ必要アラサルナリ中  
 世以前ニ在リテハ凡テ繫禁及ヒ懲苦ヲ以テ監獄唯一ノ目的トセリ繫禁ハ堅牢  
 ヲ要シ懲苦ハ其堅牢ヲ以テ狹隘暗黒成ルヘク其精神身體ヲ窘迫スルコトノ辛酷  
 ナランコトヲ望ム是ヲ以テ往時ニ在リテハ曾テ監獄構造法ノ談アルナク應  
 會伽藍船艦堂宇城寨倉庫等荷モ繫禁懲苦ノ目的ヲ達スルモノハ便宜總テ之ヲ

利用セラルハナク甚シキハ或ハ地窖獸檻等ヲ以テ之ニ代用セリ斯クテ十八世紀以降獄制改良ノ論漸ク起リ監獄ハ獨リ嚴重ナル取締ニ因リテ罪囚ノ自由ヲ管束スルノミナラス別異以テ罪惡傳播ヲ弊ヲ防キ規律役業教誨等以テ還善悔悟ノ道ヲ施シ衣食居住亦以テ其健康ヲ保全セシムルノ設備ナカルヘカラザルヲ理剛明セラルルニ及ヒ此ニ始メテ監獄構造法ヲ講究スルノ必要ヲ見ルニ至リ到ル處監獄新築ノ工事ヲ起スニ當リテ先ツ種種ノ新案顯出セサルハナク殆ト當局者ヲシテ採擇ニ苦マシムルノ狀況アルヲ致セリ

監獄構造法ノ形狀ニ數種アリ或ハ十字形ト稱シ或ハ扇面形ト稱シ或ハ長延形花狀形八角形馬蹄形卍字形星光形圓輪形正角形方狀形算木形等ト稱スルモノ即チ是ナリ而シテ諸形各其固有スル所ノ利害アリ取締ニ可ナルモノハ即チ視察ノ便ヲ缺キ視察ニ便ナルモノ動モスレハ則チ衛生ニ不可ナルモノハ或ハ衛生ニ適スルモ經濟上ニ失アルヲ免ヘス經濟ニ可ナルモノ多クハ即チ規律ノ上ニ缺點アリ其各種類ノ利害ヲ詳述スルカ如キハ今始ク之ヲ省略スルモ近時專ラ適當ナル建築法トシテ採用スル所ノモノハ十字形扇面形及ヒ

星狀形ノ三種ニシテ其他ノモノハ殆ト復タ之ヲ類サルニ至リタルモノノ如

監獄ハ大要先ツ其採ル所ノ拘禁制ニ適スル方法ニ於テ之ヲ構造セサルヘカラス分房制ニ適スルモノハ則チ雜居制ニ適セス雜居制ニ適スルモノヲ以テ之ヲ折衷若クハ階級制ニ應用スヘカラス故ニ監獄ヲ構造セント欲セハ先ツ第一ニ其監獄ハ如何ナル拘禁制即チ晝夜分房ノ制ヲ採ルカ絶體的雜居制ヲ採ルカ將タ折衷即チ晝間雜居夜間分房ノ制ヲ採ルカ若クハ階級制即チ一部ハ晝夜分房ヲ用ヒ一部ハ夜間分房ヲ行ヒ一部ハ晝夜雜居ニ處スルノ方法ヲ採用スルカヲ研究セサルヘカラス

良品ハ高價ナリ分房制ハ即チ監獄ノ目的ヲ達スルニ最も適當ナル良法ニシテ若シ其效用ノ著シキ所ヲ以テ之ヲ他ノ拘禁制ニ比較センカ分房制ハ恰モ汽車ノ如ク折衷若クハ階級制ハ猶ホ馬車ノ如ク雜居制ニ至リテハ即チ辻駕籠ノ用ヲモ成ス能ハスト謂フヲ得ヘシ辻駕籠ノ價ヲ以テ馬車ヲ求ムヘカラス馬車ノ價ヲ以テ汽車ヲ得ント欲スルノ至難ナルハ固ヨリ言フヲ換タス然レトモ僅該

三之アリ曰ク「廉ナル物用ヲ成サス又曰ク「一錢ヲ吝ミテ百錢ヲ失フ」殊ニ監獄改良家ノ泰斗、ホワルド氏曰ク犯罪ノ國家及ヒ社會ニ損害ヲ與フルヤ實ニ大ナリ然レトモ若シ果シテ犯罪及ヒ犯罪者ヲ減少セシムルヲ得ルトセハ一時多額ノ資ヲ捐テテ完全ナル行政法ヲ執行スルコト却テ彼ノ不完全ナル刑法ノ下ニ犯罪ヲ養成シ犯罪者ヲ増加スルモノニ比シテ遙ニ經濟節約ノ旨義ニ適スルモノナリト謂ハサルヲ得、下荷モ眞箇ニ獄制改良ノ事業ニ熱注シ完全ニ監獄終局ノ目的ヲ貫徹セシメントナラハ宜シク國家百年ノ長計ノ爲メニ完全ナル刑法法即チ分房制ヲ執行スルニ適當ナル監獄ヲ構造スルノ決心ナカルヘカラヌ一時期合ニ幾分カ多額ノ資ヲ捐ツルカ如キハ固ヨリ毫モ顧慮スル所ニアラサルナリ、歐米諸國亦此ニ見ル所アリ一面ニハ分房制ヲ實行セント欲スルノ熱心益々強ク一面ニハ成ルヘク多費ヲ要セスシテ之カ施行ニ適スルノ構造法ヲ索メント欲スルノ工夫愈々密ニ其結果終ニ會テ豫想シ且ツ實驗シタルカ如ク驚クヘキ巨額ノ經費ヲ要セスシテ完全ナル分房制施行ノ監獄ヲ構造シ得ヘキ方法ヲ案出スルニ至レリ然レトモ要スルニ分房制ハ他ノ拘禁制ニ比シ尙ホ幾

分カ多額ノ建築費ヲ要スルハ固ヨリ免ルヘカラサルハ自然ノ數ナリト謂フヘシ、尤モ唯一棟ニ分房制ハ多額ノ建築費ヲ要スルモ拍賣制ノ如何ニ拘ラサルモノアルヲ考テ實験スル所建築費ノ多少ハ必スシモ拍賣制ノ如何ニ拘ラサルモノアルヲ考テ實験スル所建築費ヲ要スルニシテ却チ分房制ノ監獄ニ比シ則チ多額ノ建築費ヲ要シタル事尙少カラズ、監獄居制ノ不可ナル固ヨリ論ヲ埃タス若シ國家經濟上到底已ムナクンハ則チ折衷若クハ階級制ヲ採用シ之ニ據リテ監獄ノ構造ヲ設計スルコト亦已ムヲ得ヘルナリ幾分ノ又廉價ヲ以テ比較的の稍ヤ完全ナル行刑ノ目的ヲ貫徹スルヲ得ヘシ唯憾ムラクハ分房制ニ付テハ既ニ其構造法ノ一定シタルモノアリト雖モ折衷若クハ階級制ニ付テハ未タ一定ノ準則ノ據ルヘキモノアラサルヲ蓋シ歐洲一般ノ階級制ニ分房制ヲ採用スルニ在ルカ故ニ他ノ拘禁制ニ適スル監獄構造法ニ付テハ之ヲ研究スルコト甚タ冷淡ニシテ今日ニ於テハ殆ト之ヲ捨テテ顧ミサルカ如キニ至リタルヲ以テナリ、昔國ヲチボールニ於テ千八百四十五年乃至五十一年ニ建造シタル監獄ハ則チ階級制ヲ施行スルニ適應セシムルヲ以テ目的トシタルモノニシテ其制ニ依レハ分房製監獄ヲ三棟トシ房數三百八十各房ノ廣サ二十二、二立方メートル棟ノ



管理翼ヲ以テ之ニ接続セシメテ管理翼ハ階上ハ數階ニ管理翼ノ前端尙ホ平直線ニ二棟ノ寢房翼ノ廣ハ三階ニシテ階下ハ事務所及數階ニ爲ス管理翼ノ前共同工場ヲ設ケ其建築費ヲ要スルモノ凡ソ百八十萬馬克凡我八十二萬若シ之ヲ拘禁人員五百二十四人ニ算當スルトキハ一囚ニ付キルン三千四百三十五馬克凡我千五百ヲ要シタルノ割合ナリ此他レンヅブルヒ及ヒ伯林ノアレツツエ「ゾー」ニ於テ建築シタルモノ亦階級制ニ準據シタルモノニシテ殊ニ其アレツツエ「エンゼー」ニ於ケルモノハ大ニ模範トスルニ足ルモノアリ「アレツツエ」ニ於テ千三百九十人ノ預算ニシテ凡我總計六百二十八萬七千馬克即チ之ヲ要スルニ分房制ト雜居制トハ全ク其管理法ヲ異ニスルモノナルカ故ニ之ヲ交互折衷スル所ノモノ即チ階級制ニ在リテハ少クモ先ツ分房監ト雜居監トハ切然其割合ヲ畫別シ全ク殊別ノ管理ヲ執行スルニ適セシムルノ設備アルコト必要ナリ「アレツツエ」ニ於テハ監獄ニ在リテハ殊ニ深ク此點ニ注意スル所アリシモノナリ如シ

### 第二節 監獄構造ニ關スル一般ノ原則

是ヨリ以下監獄ノ構造ニ關シ一般ニ最モ著目スヘキ重要ノ原則ヲ列舉セテ之ヲ敷演スヘシ尤モ其多クハ重ニ分房制監獄ノ構造ニ適セシムルヲ目的トシタルモノナリト雖モ移シテ以テ雜居制若クハ階級制折衷制ノ監獄ニ適用セシムルニ足ルモノ亦固ヨリ少カラサルナリ

監獄ニ於テハ男女ニ依リ峻嚴ニ之カ區畫ヲ立テ全然其規模ヲ別異スルヲ要ス男監ハ二百人以上五百人以下ヲ其拘禁囚員ノ限度トスヘシ是レ蓋シ囚人の過囚ノ旨義ヲ貫徹スルノ必要ニ出ヅルモノニシテ多數ニ失スルトキハ典獄其他ノ監獄官吏ニ於テ到底各囚人ノ囚人の關係ヲ詳悉シテ之ニ適應スルノ處遇ヲ爲ス能ハス又少數ニ失スルトキハ建築費及ヒ管理費ヲ支出スル上ニ於テ非常ニ不經濟ナルヲ免レサルヲ以テナリ故小監獄ト雖モ管理上必要ノ機關即チ學校具備セザルヘカラス而レテ此等ニ關ケルモノノ費用ハ過例監獄ヲ略セザルナリ女監ハ百人ヲ以テ其拘禁囚員ノ限度トスヘシ此限度ヲ超ユルトキハ女性ノ吏員

刑シテ之カ直接ノ管理ニ任セシムルコト甚ク困難ナラザルヲ得ス尙監獄ハ地方ノ必要ニ依リ豫メ一定ノ限度ヲ立ツルコト能ハスト雖モ是レ亦成ルヘク五百四ヲ超過セシメサルノ注意アルヲ要ス

監獄建設ノ位置ハ大市街ノ中央ヲ避クヘキハ勿論其將來ノ擴充區内及ヒ盛大ナル工業地近接ノ地方モ亦之ニ適セス其最モ之ニ適スルモノハ鐵道ニ沿フ所ノ町村ニシテ成ルヘク停車場近接ノ地方ニシテ凡ソ十丁外ナレバ地方トスルハ大都會地ニ要スル所ノ監獄ハ其類繁ナル交通品川カ爲メ最近停車場近接ノ地方ヲ選定スル所ナリ若シハ東京ニ於テハ品川若シハ王子ノ地方ヲ選定スル所ナリ若シハ神奈川若シハ程蓋シ都會熱鬧ノ地ハ唯リ地價勢力ノ高貴ナルノミナラス監獄内外ノ衛生ニ適セス殊ニ又監獄ヲ社會ト離隔シテ嚴正ナル自由剝奪ノ下ニ行刑ノ眞面目ヲ保ツノ旨義ヲ貫徹スルニ不便ナルヲ以テ其監獄建設ノ位置ニ適セサルハ論ヲ埃タス將來擴充ノ豫定區内亦然リ邊陲開闢ノ地方モ數年ヲ出テスシテ忽チ熱鬧繁華ノ市街ニ變スルノ例少カラス宜シク又豫メ此點ニ注意スル所ナカルヘカラサルナリサリトテ又其距離甚ク遠隔ニ過キ到底都會擴充ノ地域内ニ入ルノ恐ナキ地方ヲ選ントキハ之カ爲メ建築及ヒ管

理上少カラサル不便利且ツ不經濟アルヲ免レズ凡ソ二割五分以上ノ實收アリタル建築費後管理上ノ不利益甚クテ運搬費等ノ不利益押シテ不費ノ加ヘ其醫ヲ餘積チ實ルニ由ナク殊ニ其子弟皆赤貧ニ墮ルニ在リ

當常ニ能ハル間チ他ノ職任ノ道ヲ求ムルニ至ルカ然レバ鐵道沿路ノ町村即チ小都會ノ地方ニ在リテハ能ク此等ノ弊失ナキヲ期スルヲ得ヘシ

建築ノ地所ハ其圍繞地ニ比スレハ稍ヤ高位ヲ採テ餘分ノ工事ヲ費サスシテ排水等ノ利便アルヲ要ス且ツ其地所ハ一般ニ高燥開闢ニシテ陰氣ナラス新鮮ノ空氣常ニ流通シ潛水沼澤等ニ近接セサルノ地方ヲ選定スヘシ下水ノ疏通ハ衛生ニ要スル所ノ洗滌等ヲ設ケルコト最モ必要ナリ即チ成ルヘク多額ノ費用ヲ地所ノ水質及ヒ水量ヲ檢定スルコト亦要件タリ水質ハ化學的分析ニ由リテ其純良ヲ證明シ水量ハ監獄構内ニ生活スル者包含スルニ對シ一人凡ソ毎日百リ一テ升凡五斗五升ヲ費消スルニ適スヘキコトヲ查定スルヲ要ス

地所ハ砂質灰質等ヲ可トシ要スルニ乾燥且ツ成ルヘク滲透シ易キ地質ナルヲ要ス



新入室放免室、傾置庫、懲罰室等ヲ設備スルヲ可トス事務所ノ廊下ハ幅三メートルトシ其床ハ堅石若クハ地氈ヲ以テ疊ミ所内ノ牀ハ木板ヲ張ルヘシ  
 教誨堂ハ分房制ニ在テハ一因毎ニ坐席面狀ニ仕切ヲ設ケ四人ヲシテ演說及ヒ此ニ坐スル所ノ教誨師ノ外前後左右堅ク相接シ相見ルコトヲ得サラシム教誨堂ハ兼テ之ヲ就學室學校ニ用フルヲ便トス  
 經理用諸建造物炊所浴室倉庫洗濯所蒸氣室等ノ類ハ牆壁ヲ以テ區處シタル特別構内ニ之ヲ設ケ其牆壁ト周壁ノ間ニハ相當ノ距離ヲ存シ以テ視線ヲ遮リ巡回線路ヲ害スルカ如キコトナカラシムルヲ要ス經理構内ハ病監ニ近接スルヲ避ケ且ツ此ニ出入スル所ノ者ハ凡テ他ノ部分ヲ經過スルコトナカラシム  
 炊所及ヒ洗濯所ノ高サハ四メートルヲ超過スヘカラス天井ハ鐵柱ヲ以テ支ヘ穹窿ニ建造スヘシ土床ハ透明ニシテ糞分カ滑カナル堅キ礮石ヲ敷設シ水ノ漏泄ヲ防クヘシ用水ハ渾ヲ容易且ツ急速ニ放流セシムルノ裝置ヲ設ケ洗濯所ニハ簡便適當ナル乾燥器械ヲ具備スヘシ

浴室ハ監房翼若クハ其地下層内ニ設ケヘカラス宜シク監房ヨリ容易ニ達シ得ラルヘキ附屬建物ノ内ニ之ヲ建設スルヲ要ス浴室ニハ混浴ニ供スル相當ノ大サアル槽桶ヲ備フルノ外尙ホ少キ水量ト短キ時間ヲ以テ多數ノ人員ヲ沐浴セシムルノ便利アル灌注浴ノ裝置アルヲ可トス不潔ノ役職ニ使事ノ處者ナルハ一週一回ハ入浴セシムルノ準備アルヲ要ス  
 (灌注浴ノ裝置) 地盤高キ所ニ水槽ヲ備ヘ槽ヨリ二條ノ管ヲ焚爐ニ通シ管端ノ螺旋ニ由リテ槽水ヲ煮沸セシム温度ハ二十五度乃至三十五度ニシテ第三管ハ水槽ヨリ浴室ノ各部ニ通シ各部ニ設ケアル所ノ嘴狀形ノ管口ヨリ温湯ヲ灌注ス灌注ノ時間ハ三分乃至四分ヲ以テ全身ヲ沐浴セシムルニ十分ナリ水量ハ毎回六士リイタルヲ要シ石炭費消ノ高ハ二百二十回ニ付キ凡ソ百五十キログラムニ「キログラム」  
 我二百六十八如餘ヲ以テ足レリトス浴室ハ油引ノ綿布ヲ覆フテ區畫スヘシ

病監ハ監房事務所等ト離隔シタル位置ニ於テ成ルヘク牆壁ヲ以テ區處シタル別構内ニ設クルヲ可トス病監ノ規模ハ凡ソ在監人員ノ百分ノ五乃至百分ノ八ニ該當スル人員病囚ヲ容ルルニ足ル程度トシ雜居室ノ外尙ホ相當處

要ノ獨居室ヲ設置スヘシ獨居室ハ四十立方メートルヲ羅居室ハ一四ニ付キ二十  
 五立方メートル以上ノ空氣ノ容量アル廣サナルヲ要シ窓戶ノ如キハ檢束ニ差  
 支ナキ限リハ總テ成ルヘク衛生ニ適セシムルノ工夫ナカルヘカラス病監  
 二ハ病室ノ外向ホ醫務所藥局看守所浴室<sup>洗面</sup>廁所<sup>便所</sup>等ヲ以テ常ニ十分洗濯室  
 ヲ備フ<sup>乾燥</sup>及ヒ二三ノ癡狂室ヲ設備シ前面ノ空地ハ庭園ノ營造トシ患者ヲ  
 シテ屋外運動ヲ爲サシムルノ用ニ供ス其他屍室ハ構内片隅ノ地ニ之ヲ設クル  
 ヲ要ス

監獄ニ於テハ經理用ト工業用トニ論ナク渾テ蒸氣、機關、裝置、避、クルヲ要ス  
 蓋シ監獄ニ於テハ廉價ナル勞力ノ餘レルモノアルヲ以テ之ヲ利用セハ能ク彼  
 ノ蒸氣力ノ作用ニ代價セシムルヲ得ヘシ  
 用水ハ地盤高キ所ニ設置シタル貯水槽ヨリ手力ノ使用ニ依ル唧筒ヲ以テ之ヲ  
 各必要ノ場所ニ供給スルノ方法ヲ取ルヘシ水槽ハ凡ソ常ニ一萬リ一テアルノ水  
 量ヲ保ツニ足ルノ容積アルヲ要ス<sup>非常等ノ場合ニ際シ先ツ第一若ニ消防火栓</sup>  
 一相當ノ場所ニ數箇所之ヲ設置スヘシ

明治三十三年九月十一日印刷  
明治三十三年九月十五日發行

東京市四谷區四谷仲町三丁目六番地

小田 幹 治 郎

發行執  
者號

東京市芝區四ノ久保町第十一番地

金子 鐵 五 郎

印刷者

東京市芝區四ノ久保町第十一番地

金子 浩 版 所

印刷所

東京市總町區富士見町六丁目十六番地

發行所 司法省 指定 **和佛法律學校**

(電話番町百七十四番)



明治二十二年十二月九日內務省許可